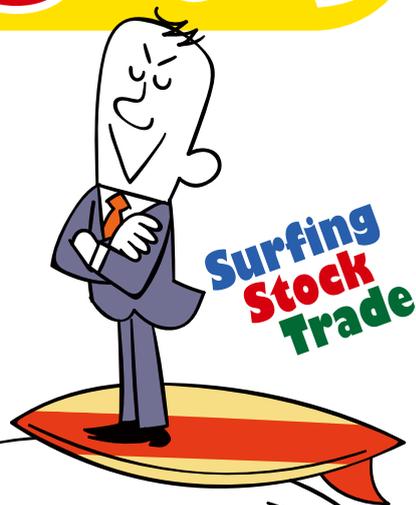


5年間無敗、

下山敬三
Keizo Shimoyama

勝率91.6%の

波乗り 投資法



1日5分のトレードで
年利100%を達成!!

◎取引するのはたった1銘柄!

◎株価の予測なんて1mmもしない!

◎ロスカット不要!

こんな非常識な
株式投資手法
だからこそ勝てる!

「年利100%を
達成できる
投資銘柄の選び方」
付

9割の株式トレーダー
が失敗する理由は
ここに!!

波乗り投資法完全習得セミナー

「特別無料ご招待」のご案内

株の初心者・経験者にかかわらずやれば必ず利益が出てしまう
奇跡の株式投資手法『波乗り株トレード』完全習得セミナー

書籍購入者限定特別無料ご招待!!

書籍購入者様へ「特別無料ご招待クーポン券」をお贈り致します。

こちらのクーポン券をご利用いただくことで、
有料セミナーを**無料**でご招待致します!

波乗り投資法完全習得セミナー

特別無料ご招待クーポン券

※お一人様一回限り / 有効期限：クーポン券到着から半年以内

特別無料ご招待券の使い方

http://kabu-ac.com/seminar_book/ から、希望日を選び通常の(銀行振込・クレジットカード払い)お申込みを銀行振込のお申し込みをして頂きます。こちらの料金は、実際振り込みされなくて未納のままで大丈夫です。

代わりに当日にこちらのクーポン券を印刷して受付スタッフにてお持ち下さい。

詳しくは http://kabu-ac.com/seminar_book/ へアクセス

目次

CHAPTER1 勝率 91.6%、5 年間無敗の“波乗りトレード”	3
■信用取引は現物取引より安全	4
■資金を 5 分割してバランスを取る	7
■取引するのはたった 1 銘柄でいい	10
■複雑チャートなど一切見ずに、ガラケーだけでもできる	11
■1 日 3 分！気が向いたときにやるだけ	14
■ロスカット不要の波乗りトレード	15
■リスクヘッジをしないからドカン！と負ける	17
■波乗りトレードは“いつの間にか勝っている”手法	18
CHAPTER2 波乗りトレードが活きる銘柄選び	21
■波乗りトレードのための銘柄の条件	22
1. 倒産しにくいこと	22
2. 信用取引ができる	24
3. 値動きが大きい	26
4. 出来高が大きい	27
■実際に銘柄を見てみよう	29
■私がブリヂストンにたどり着くまで	41

CHAPTER3	これが常勝・波乗りトレードの手法だ！	46
■	過去トレードをやってみよう	46
■	利益調整のテンプレート	57
■	バーチャルトレード	67
■	リアルトレード	88
CHAPTER4	勝ち続けるメンタルを持つ	117
■	勝ち続ける事の怖さ	118
■	初心を忘れる事の怖さ	119
■	メンタルの重要性	120
■	初心者と経験者での注意点の違い	123
■	メンタルで失敗した人・成功した人	125
■	メンタルはこうやって維持する！	136

CHAPTER1 勝率 91.6%、5 年間無敗の “波乗りトレード”

株をやったことが無い人の中には、株に対して非常に難しいものであるというイメージを抱いている人が多いものです。なぜならば儲けるために株を始めた人の多くが、資金を失っているという事実があるからです。素人が手を出したところですぐに資金を吞まれてしまうだけだというイメージが強いのです。

確かに、株式投資で儲けを出しているトレーダーは全体の1割程度に過ぎず、彼らは正しい投資判断をするためにチャートやファンダメンタルなどの分析を欠かさず、情報収集も怠らず、多くの時間を費やして取引に臨み、損失と利益確定を繰り返しながらトータルで利益を出しているという状況です。

一般的な手法では株価を予測して株を買い、それが予測どおりに値上がりすれば利益が出るという手法ですが、私の行う「波乗りトレード」では予測を当てることを重要とは考えません。そのため、分析や情報収集にも時間をかけることはありません。そもそも予測をはずした後でもいかにして利益を出していくかという事を考えて考案された手法であるため、サイコロを振って売買判断をしても勝ち続けることができるのです。実際に私は波乗りトレードを用いて5年間無敗、勝率 91.6%という記録を出し、今も着実に利益を積み重ねています。

それではなぜ、波乗りトレードでは予測をはずしても利益を出して行く事ができるのでしょうか。それは大きく分けて 3 つの理由によって可能となっています。それは、

- ・信用取引を行う
- ・資金を 5 分割する
- ・単一銘柄のみを扱う

という事です。これらを順次に見て行く事にしましょう。

■信用取引は現物取引より安全

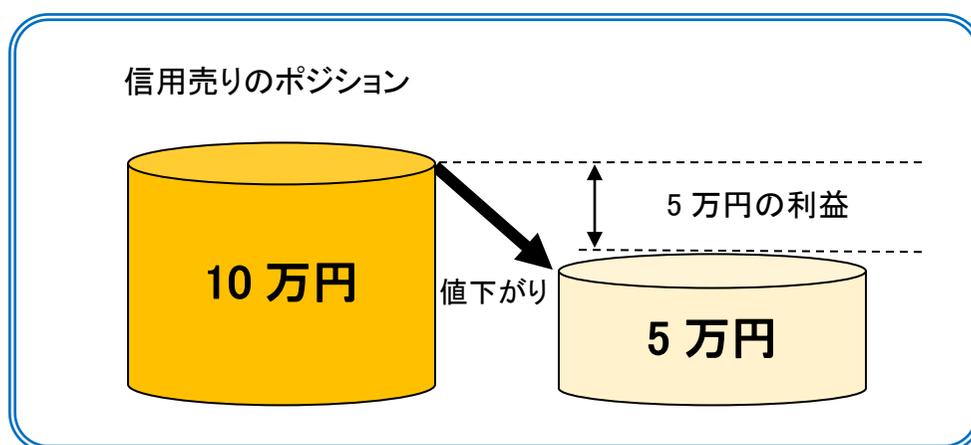
取引の方法には現物取引と信用取引があります。信用取引を知らない方のために簡単に説明をしますと、信用取引には大きく挙げて

- ・**信用売りによって下げ相場でも利益を出す事ができる**
⇒「買い」と「売り」という両方のポジションを持ち、利益を出すことができる
- ・**元手の 3 倍まで取引ができる**

という 2 つの特徴を持っています。

現物取引の場合には株を買い、値上がりすれば利益が出て、値下がりすれば損失が出るだけであることに対し、信用取引には信用買い、信用売りというものがあります。この信用売りをを用いる事によって、本来手元になかった株を売るというポジションを取ることができます。

信用売りに関してはなじみのない人には非常にイメージがしづらいものです。何も無いところから「売る」という行為を行える意味が分かりづらいのです。そのため、より簡単に理解するためには、例えば 10 万円で信用売りによってポジションを持ったとき、5 万円に値下がりすればその差額である 5 万円が利益となる、というイメージを持つといいでしょう。これが信用売りというものです。そして信用買いは現物買いと同様に、買いのポジションを持った株価から値上がりすれば儲けが出るというものです。



信用取引を用いてこそ、波乗りトレードは負けられない手法となります。つまり、現物取引では元手に応じて株を買い、値上がりを待つだけです。そのため、ポジションを持っているときにリーマンショックやギリシャショックのような世界同時株安が起こり、値下がりが続けたときには手も足も出なくなり、大きな損失を出してしまいます。また、予想と逆方向の値動きをしたときには、ロスカットをするか、値戻りまで待ち続けることしかできません。

これに対して信用取引の場合には、信用売りによって売りのポジションを取る事ができるため、下げ相場でも利益を出す事ができるのです。つまり、何が起るかわからない株の世界においては、売りのポジションも取る事ができる信用取引のほうが、現物取引よりもむしろ安全なのです。

そして、2つ目の特徴によって、元手の3倍の取引を行うことが可能になります。信用取引のこの部分に対して「危険な取引手法だ」と思っている方もいるかもしれませんが、そんなことはありません。信用取引をすることによって、損失を出したときに大痛手を受けると思っているかもしれませんが、そもそも信用取引やレバレッジというものは正しく使えば味方になるものであるため、この心配は杞憂に過ぎません。

例えば元手が100万円あった場合、現物取引では3000円の株を100株単位で3ポジション保有するためには30万円が必要であり、1ポジションを保有したら余剰資金は10万円しか残りません。

しかし、信用取引を行った場合には元手の3倍までの取引が可能となるため、同じ株を1ポジション保有するのに、実質10万円しか掛からないこととなります。つまり、3ポジションを保有したときの余剰資金は70万円残る事となり、より自由度の高い取引を行う事が可能となるのです。

そして上でも述べたとおり、買いと売りの両方の取引ができることによって、むしろリスクを下げる事ができるのです。

また、信用取引には「**追加証拠金**」というものが存在します。これは元手に対して大きな含み損を出したとき、更にポジションを保持し続けるためには追加でお金を支払う必要があるというものです。

資金を 5 分割して取引をしていく波乗りトレードでは、このような状況に追い込まれることはほとんどありません。実際に私は 5 年間の取引を通して、追加証拠金を支払った事は一度もありません。

以上によって、信用取引が現物取引より優れたものであることがよく分かったと思います。売りのポジションを持つことができるため、予測をはずしてしまっても値下がりをした場合にも、下げ相場から利益を取る事ができるのです。売りと買いのポジションでバランスを取って行く事によって損失を出す事がない波乗りトレードにおいては、一般的に恐れられている信用取引が、強い味方となってくれるのです。世間で一般的に恐れられている信用取引はなんら恐れる必要はないものであることがわかったと思います。

■資金を 5 分割してバランスを取る

予測をはずしても利益を出す事ができるのは、資金を 5 分割し、あらゆるタイミングで売りと買いのポジションによって調整することで、予測をはずして含み損が生まれた場合にも、それを転じて含み益を出して行く事ができるからです。相場の動きに合わせて柔軟に複数ポジションを取る事によって、これが可能となります。最も分かりやすい例を挙げるならば、「値上がりすると思って買いポジションを取ったら、予測に反して値下がりをした。ならば売りポジションを持って値下がりして儲けよう」というようなものなのです。91.6%の勝率と、5 年間無敗の実績は、通常の取引手法ではとても達成できないものですが、この手法によって、それが可能となったのです。

負けることなく着実に利益を出していくためには、いかにして資金管理をするかということが大切となりますが、資金を 5 分割するというのがその方法です。波乗りトレードにおいては、資金を 5 分割して、合計 5 ポジションをとり、そのポジションの中に売りと買いのポジションを混在させることで資金管理を行います。これを「**資金 5 分割法**」といいます。

例えば元金を 100 万円で投資を始めるのであれば、

$$100 \text{ 万円} \div 5 = 20 \text{ 万円}$$

であり、一つのポジションにかけることができるお金は 20 万円以内となります。

しかし 20 万円以内に限定してしまうと、買うことができない株が多数出てしまいます。例えば 1 株あたりの株価が 3000 円であり、100 株単位からの取引が可能な銘柄の場合には、

$$3,000 \text{ 円} \times 100 \text{ 株} = 30 \text{ 万円}$$

となり、取引を始めるためには最低 30 万円の元手が必要となるからです。

先に信用取引のことを述べましたが、元手の 3 倍までの取引ができるということがここで生きてきます。信用取引の場合には、元金の最大 3 倍までの取引が可能になるため、元金が 100 万円の場合にはその 3 倍にあたる 300 万円分の取引が可能になり、これに資金 5 分割法を用いるならば、ひとつのポジションにかけられるお金は 60 万円に増えるのです。

1 ポジションあたりにかけられるお金が 60 万円に増える事で、取り扱う事ができる銘柄が増えます。

300 万円分の取引をする場合に、その元金を分割せずに 300 万円分のポジションをとった場合、株価が予想と反対の値動きを示したときには大きな損失となります。しかしこれを 5 分割し、最大 60 万円分のポジションを売りと買いに分散して複数ポジションを保有する事によって、大きな損失を防ぐ事ができ、また利益を確定できるタイミングも増やす事ができるのです。

後により詳しく述べていきますが、これが資金を 5 分割する大きな理由です。

この「資金 5 分割法」は、これが波乗り株トレードでは最も重要なところとなります。資金を 5 分割して買いと売りを併用してバランスをとって行く事によって、利益を確定していく手法だからです。

波乗り、つまりサーフィンというスポーツは、サーフボードという板の上で、自身のバランス感覚のみを頼りに波の上を滑っていきます。売りと買いのバランスを上手くとりつつ損失を出さずに利益を確定していくさまは、あたかもサーファーが波の上を優雅にすべる姿に似ている、ということから、このトレード手法を波乗りトレードと呼ぶようになったのです。

■取引するのはたった 1 銘柄でいい

通常の手法で株取引をするときには、一般的な手法ではひとつの銘柄に集中して投資するという事は教えられず、複数銘柄に分散して投資することによってリスクの分散をするのがいいとされます。例えば 5 つの銘柄に投資したとき、いくつかの銘柄で損失を出しても残りの銘柄で利益を出し、トータルで利益になればいいからです。

ここが難しいところです。株式投資で投資の対象となる銘柄は 4000 社近くも存在するため、どの銘柄を選べばいいのか分かりにくいからです。多くの人が色々な銘柄を探し、労力を使っています。

しかし、波乗りトレードでは単一の銘柄を扱うのみです。単一銘柄のみを扱うといえ、その銘柄で損失が出たときにそれをカバーすることができないか、と思うかもしれませんが、そもそも波乗りトレードではその単一銘柄に対して、5 つに分散したポジションをとって投資していくことによってリスクヘッジを図ります。複数銘柄に投資をする必要がないのです。

そして、そのような取引で利益を出すことができる銘柄を取って選んで取引をしていくため、単一銘柄のみに対しての投資で利益を出していくことが可能なのです。

もし単一銘柄に対して、60 万円を 5 ポジション投資するのではなく、5 つの銘柄に 1 ポジション 60 万円ずつ投資したとしましょう。これは従来の手法であり、このうちのいずれかがマイナスとなった場合にも、残りで利益を出してトータルでプラスにすればいいと考えます。しかし、世界的な経済悪化によって株が全面安となったら？あるいは 5 つの銘柄のトータルで損失のほうが多か

ったら？どうしようもありませんね。株で損する人の多くはこうして負けているのです。

しかし 60 万円を 5 ポジション、単一銘柄に投資したらどうでしょうか。買いと売りのポジションをとって損益のバランスを取って行く事で損失ははるかに生まれにくくなります。買いポジションと売りポジションのどちらも持っていることによって、3.11 の大震災や、世界的な経済悪化やなんらかの事件が起こったときに大幅な値下がりをしたとしても、売りポジションを持っているので安心です。

これが単一銘柄に対して複数のポジションを持っていることの強みです。

■複雑チャートなど一切見ずに、ガラケーだけでもできる

通常的手法では、会社四季報や経済雑誌、日経新聞などから広く情報を集め、ファンダメンタル分析によって企業を分析し、株価の推移を予測します。そして、実際の株価の推移を見るためには、複雑チャートを用いてテクニカル分析を行い、株価の推移を予測します。このどちらかに偏るのは失敗の元であり、どちらも十分に使いこなせるようになって、はじめて勝つ事ができるとされています。そのためには複雑な知識を覚えなければならず、多くの株テクニクの本はそのような知識であふれています。

これも初心者が株を敬遠する理由となっているでしょう。また、これらの知識を広く学んでも、それを十分に使いこなして利益を出す事が出来ていける人は、ごく一部の人に限られるのです。

しかし、波乗りトレードでは多少のファンダメンタルズ分析は行うものの、そのような複雑な知識は必要ではありません。必要なのは、「正しい銘柄選びをすること」「資金管理がしっかりとできていること」「ルールを守ること」くらいのものであります。

正しい銘柄選びは **4つの条件** に沿った銘柄であるかどうかを判断するだけなので、なにも難しい事はありません。銘柄選びに自信がなければ、CHAPTER2 で私が実際に取引をしている銘柄を教えますので、その銘柄で取引を行えばいいだけです。

資金管理の方法についても、資金を 5 分割して信用取引を行うというだけなので、なんら難しい事はありません。実際のポジションの取り方と利益調整の方法を、バーチャルトレードや過去トレードにおいて学んでいけば、難なくマスターすることができます。

このようなことは従来の取引手法の常識から考えれば嘘のような事なので信じがたい人が多い事でしょう。私自身、「確かにチャートを見ずに取引を行っても利益を出す事ができるが、これをどうやったら信じてもらえるだろうか」と様々に思いをめぐらした結果、ひとつの実験をすることにしました。

それは、120 人の人たちに対して、1 時間ほどで波乗りトレードの「ポジションの取り方」と「利益調整の方法」のみを教え、チャートやファンダメンタルズに関する情報を一切与えず、1 日ごとの終値だけをもとに、約 2 ヶ月間の過去トレードを行うという実験です。つまり、終値をみて売りと買いのポジション調整を行うことのみで利益を出す事ができるかどうか実験したのです。120 人は各 10 人ずつの 12 チームに分け、資金の設定は 100 万円で行いました。

すると驚くべきことに、12 チームのすべてにおいて損失を出すことなく、利益を出す事ができたのでした。もっとも成績の良かったチームで 23 万円の利益を達成しました。

この実験結果からも分かるとおり、波乗りトレードにおいては複雑チャートによる分析などは一切使わずとも利益を出して行く事ができる手法なのです。

株式投資で利益を出している人の姿を想像すると、何台ものモニターに複雑なチャートを表示し、機を見て投資や決済をしていくというイメージがあるかもしれませんが。しかし波乗りトレードではチャートによるテクニカル分析をする必要がないのですから、極端な話をすればパソコンさえ不要です。ガラケー一台あれば利益を出し続ける事ができる手法であり、実際に私はほとんどの取引をガラケーで行い、勝率 91.6%、5 年間無敗という成績をたたき出しているのです。

複雑な知識が必要なく、高度な設備も必要ではないため、どんな人でもすぐに始める事ができ、安定して利益を出し続ける事ができます。実際に波乗りトレードで利益を出し続けている人は、複雑な知識を持った人ではありませんし、飛びぬけて頭がいいわけでもありません。これまで負け続けていた人を始め、株に初めて挑戦する 50 歳の会社員の人、パティシエの女の子、学生、証券マンなど、誰もが皆勝てるようになっているのです。

どれだけ複雑高度な知識や設備があっても勝つ事が難しい株式投資の世界で、ずぶの素人や負け続けてきた人たちが、複雑な知識を持つこともなく、ガラケーだけでも利益を出して行く事ができる、それが波乗りトレードなのです。

■1 日 3 分！気が向いたときにやるだけ

先にも述べましたが、通常取引手法では、とくにスキャルピングやデイトレードの場合には、多くのトレーダーが毎日数時間チャートに張り付き、利益を出せる瞬間を見計らっています。しかし、その労力とは裏腹に、利益を出し続ける事は難しいのです。スイングトレードなどの中長期投資をしている人でも、毎日の分析は欠かせないとされています。

しかし、波乗りトレードでは複雑なファンダメンタルズ分析やテクニカル分析は必要ではありません。では株で勝つために毎日なにをしているのか？ということですが、特に何もしていません。一旦手法を学んだならば、1日の株価の値動きとこれまでに保有したポジションに対して、利益の調整をするだけです。つまり、毎日行う作業としては、「売りか買いのポジションをとること」、「必要であれば決済をすること」、場合によっては、何もせず見送ることもあるくらいです。1日1回、必ずしも取引をする必要はありません。

たしかに簡単なファンダメンタルズ分析をすることもありますが、それも週に数回、数分程度の作業です。毎日の作業は3分もあればできてしまいます。

このため、今まで「株に費やす時間がない」「長時間を費やしてまでは取り組むたくない」と思っていた人でも、容易に取り組む事ができます。仕事や家事の片手間に3分間取引を行えば十分なのです。実際に、1日1回のスイングトレードを行っているときの私の1日は、ほとんどの時間がパズドラやズーキーパーといったゲームに費やされています。

■ロスカット不要の波乗りトレード

通常の手法では、ポジションを取り、それが予測とは反対の値動きを示して含み損を抱えたときには、損失の拡大を防ぐために、できるだけ早い段階でロスカットをすること、またはそれに必要なメンタルの重要性が教えられます。しかし波乗りトレードでは、含み損を抱えますが、ほとんど気にすることはありません。なぜならば、含み損は利益の種となるからです。

「含み損が利益になる」と聞けば「え？」と思うかもしれませんが、含み損とは決済をして初めて損失となるものであり、決済をしなければどれ程大きな含み損となろうとも実際に損失となる事はありません。一時的に含み損を抱えたとしても、6ヶ月以内に株価が戻ってきて含み益となったときに利益確定をすれば、利益を出す事ができます。そして波乗りトレードで取引する銘柄は、6ヶ月以内に株価が戻りやすい、つまりそれだけ値動きが大きい単一銘柄を取り扱っているため、ほとんどの場合値戻りが見込めるのです。

株価には波があるものです。いくら上げ相場だからといって、永遠に値上がり続けるという事はなく、いくら下げ相場だからといって、永遠に値下がり続けるという事はないのです。つまり、株価の値動きをチャートで見ると分かるとおり、株価は波を描いて推移しているのです。つまり、3,000円で買った株が 2,900 円に値下がりをしたとしても、波を描いていずれ高い確率で 3,000 円に値が戻ってくるのです。

なぜここまで強く「株価はほとんどの場合戻ってくる」とか「含み損は含み益に転じるものだ」ということを強くいえるのかというと、私が実際に出したデータがあるからです。

そのデータとは、2013 年 1 月～6 月に渡ってブリヂストン株を対象に分析を行った結果（波乗りトレードで用いる信用取引の最長の取引期間が 6 ヶ月であるため、調査期間もそれに合わせました）、実に **93%**の確率で株価が戻ってきていたのです。

この調査結果からも、6 ヶ月以内に「株価はほとんどの場合戻ってくる」、「含み損は含み益に転じるものだ」ということが、分かるのです。

仮に株価が戻ってこずにロスカットをすることとなっても（このようなことはあまりありませんが）、複数ポジションで利益調整を行うことによって、その含み損をカバーすることができますし、最悪損失で終る事があった場合でも、それまでに積み重ねた利益のほうが、損失をはるかに上回っているのです。

実際に、私の 2012 年の成績で、ロスカットした回数は 7 回のみであり、逆に利益決済をできた回数は 77 回です。だからこそ、91.6%という勝率を出す事ができているのです。

心配性なメンタルというものは、調子がいいときにはブレーキとなるので良いものです。しかし調子が悪いときに心配性となってしまえば、含み損に対して精神が耐えられなくなってロスカットに至ってしまいます。波乗りトレードで求められるのは、大局的に見て、目先は見ず、株価が悪い方向に傾いても悲観的になり過ぎないという事です。

波乗りトレードでは基本的にロスカットルールがありません。そのため、含み損を長く抱える事もあります。含み損は決して良いものではないので辛いと感じる人も多い事でしょう。波乗りトレードを生み出し、数年にわたって「含み損はいずれ利益になる」ということを骨身にしみて理解しているはずの私でも、含み損を抱えたときにはいい気持ちはしないのです。しかし、含み損がい

ずれ利益になることを知っているから我慢できるのです。詳しい方法は後述しますが、含み損に耐えていくためのメンタルが必要です。

■リスクヘッジをしないからドカン！と負ける

冒頭でも述べたとおり、波乗りトレードでは資金を 5 分割することによってリスクヘッジを図ります。通常の手法でなぜ利益を出して行く事ができないかといえば、それは 1 つの銘柄に対し、1 つのポジションで挑むため、予測とは反対の値動きをしたときに大きな損失を出してしまうからです。

このことは、5 分割をしなかった場合と、5 分割をした場合とを対比して考えるとより分かりやすいでしょう。

資金 5 分割法がどれくらいリスクヘッジになるのかを考えて見ましょう。

例えば通常の手法のように、全く分割せずに 100 万円の資金を運用するとき、自分が持ったポジションから値上がりするか、あるいは値下がりするかの確率は $1/2$ であり、損失が生まれる確率は非常に高いといえます。

しかし 5 分割をした場合には、どうでしょうか。最初のポジションが予測から外れる確率は $1/2$ であり、次のポジションが予測から外れる確率も $1/2$ です。

全体を通じてのポジションが予測から外れる確率を見るならば、

$$1/2 \times 1/2 \times 1/2 \times 1/2 \times 1/2 = 1/32$$

であり、全ての予測が外れる事はほとんどないということが分かります。更に、この5つのポジションは買いと売りを混ぜて保有しているため、一部のポジションで含み損を抱えた場合にも、含み益となっているポジションと相殺決済することによって、利益を出す事ができる確率が非常に高くなるのです。

波乗り株トレードの目指すものは利益を大きく出す事よりも、負けないことのほうに重きをおいています。利益が少なすぎるということはなく、リスクを負いすぎないという手法であり、着実に長く利益を出していくのが5分割法なのです。

■波乗りトレードは“いつの間にか勝っている”手法

通常、株取引のイメージとして代表的なのは「ハイリスクハイリターン」という、一攫千金のような手法です。様々な分析によって株価の推移を予測してポジションを取り、その予測が見事的中したときには大きな利益をあげることができ、反対に予測が外れた場合には大きな損失を被る事となります。

しかし、波乗りトレードの手法ではリスクヘッジをするため、ハイリスクを負う事はありません。私は配信用の取引で年利 80%を記録していますが、資金5分割法での利益調整というやり方はハイリスクハイリターンの方法ではなく、ローリスクで利益を積み重ねていく手法なのです。波乗りトレードは、予

測をはずして本来ならば損失になっているにもかかわらず利益を取る事ができるのですから、一攫千金の手法ではありません。

一攫千金のやり方はハイリスクハイリターンで、しかもなかなか勝つことはできません。神様か預言者のように予測を全て当てられるならばそれでも良いでしょうが、そんなことは不可能で、実際にはローリスクで利益を積み重ねていくことが、最終的に大きな利益を出して行く秘訣なのです。

資金管理でリスクヘッジをすることによって損失を出す確率を限りなく下げ、大勝という感じではないものの、利益を積み重ねて行く事によって毎月のトータルや1年のトータルでみると大きな利益を出す事ができているというものです。

また、単一銘柄のみを見ている事によって、決算発表のときなどの値動きを読みやすいときが分かってきます。そのときには大きく利益を取る事ができます。一般的な手法では値動きを予測してポジションを取り、予測が当たれば利益を出す事ができ、外れたときにはマイナスとなります。そして、マイナスになる事のほうが多く、トータルでは負けてしまうことが多いのです。しかし波乗りトレードの場合には、予測が当たった場合には大きな利益を出す事ができ、もし予測が外れた場合にもポジション調整によって利益に転じることができるといえる手法なのです。

ちなみに、私が配信用に行っている取引では、毎日3分の取引を積み重ねる事によって、年利80%という結果を残し続けています。銀行に預けておいても金利は0.0~%というご時勢、年利80%という数字は魅力的なのではないでしょうか。

正しく選んだ銘柄を、5 分割した資金で運用して行く事によって「負けることなく着実に利益を出して行く事ができる」ということは、言い換えるならば

○リスクを回避しながら、利益確定を目指す

○利益を出すことが難しいときには、買いと売りを相殺決済して調整する

ということです。

従来の取引手法と比較して、波乗りトレードは非常識的な手法の連続です。良くも悪くも常識を重んじる日本人の気風からすれば非常識的なことを嫌うものですが、「常識的な勝てない手法」と「非常識的な勝てる手法」のどちらを選んだほうがいいのかは自明の理でしょう。投資の本来の目的は「お金を増やす事」にあります。常識的であろうと非常識であろうと、その根本の目的を達成できればいいのです。

その事を考えたとき、従来の常識的な手法などは一旦捨ててしまい、非常識的な波乗りトレードに挑戦する価値は十分にあるといえるでしょう。

今の時点ではまだ疑いを抱いている人も多い事でしょうが、本書を読み進めて波乗りトレードの真骨頂に触れるにつれて、この手法によって利益を出す事ができると確信する事でしょう。

CHAPTER2 波乗りトレードが活きる銘柄選び

株式投資をするときには、どの銘柄を対象として投資を行うかということを決める必要がありますが、投資の対象となる銘柄は4,000社近くも存在します。先に述べた通り、波乗りトレードでは単一の銘柄のみを取引していきます。4,000社近くも存在する銘柄の中から、果たしてどうやって安定した稼ぎを生み出してくれる銘柄を見つければいいのでしょうか。

単一の銘柄を選ぶのですが、4,000社の中に探せば何社も見つかるので、それらの中から自分がいいと思うものに投資すればいいでしょう。波乗りトレードでは、そのトレード手法を活かすためにも、その単一銘柄選びには慎重になる必要があります。銘柄を選び間違っていれば、いくら秀逸な波乗り株トレードであっても、稼ぎを出して行く事はできません。通常的手法では企業の情報を、会社四季報を初めとしたさまざまなものから情報を収集して銘柄選びをするのですが波乗りトレードではそのような難しい分析はしません。

このトレード手法を活かすためには、取引の対象となる銘柄は

- ・倒産しづらい
- ・信用取引ができる
- ・値動きが大きい
- ・出来高が大きい

という **4つの条件**を満たしている必要があります。

これらの条件について、詳しく見て行く事としましょう。

■波乗りトレードのための銘柄の条件

1. 倒産しにくいこと

投資対象となる企業が倒産しにくい企業であるという事は最低限必要なことです。波乗りトレードはリスクヘッジに注意し、なるべく損失を出さないようにしながら利益を出していくトレード手法ですが、いくらリスクに強いこの手法でも、企業が倒産してしまっただけでは手も足も出ません。株価は 0 円となり、大きな損をすることとなります。

取引対象となる銘柄は上場企業であり、上場するためには一定の水準をクリアしなければならないため、本来倒産しづらいものなのですが、100%倒産をしない企業というのは存在しません。そして、倒産がトレーダーにたいして大きな損失をもたらすものである以上、取引をする銘柄はできるだけ倒産する確率が低い企業でなければなりません。

倒産しやすいか、倒産しづらいかを判断するためには、まず業績を見るようにします。その企業の主力商品が同業種内で世界的にどれくらいのシェアを誇っているかという事です。世界的シェアが高く、尚且つそれが一過性のものでないならば倒産しづらい業績を上げているということが出来ます（シェアが高くとも、それが一時的なブームに過ぎないのであれば、それは信用するに足りません）。

また、経営年数も倒産しづらい企業としてのひとつの指標となります。長く経営されている企業は倒産しづらいものです。しかし反対に、急成長している新興の銘柄は魅力的である一方、どこでどう転んでしまうか分からないという怖さがあるのです（上場廃止となったライブドアなどが良い例でしょう）。

倒産しにくい企業であるためには、世界的シェアが大きく、経営年数が長いということが判断の基準となります。絶対に倒産しないという企業はないものの、倒産に遭遇する確率を下げる事はできます。より安全な銘柄を選ぶようにしましょう。

注意したい点は、同業種内でシェアが大きくとも、絶対数が少ない業種である場合にはシェアの大きさはあまり頼りにならないという事です（例えば、国内シェア第1位であったJALが上場廃止となったように）。

ただし、倒産しづらい企業であると同時に、他の3つのポイントも抑えなければ取引対象の銘柄とはならないため、その点を加味して考えるようにしましょう。例えば、ある業種において世界第5位のシェアを誇る企業と世界第10位のシェアを誇る銘柄があったとして、前者は信用取引ができず、後者は信用取引が可能なのであれば、当然選ぶ銘柄は後者の銘柄になるということです。

2. 信用取引ができる

波乗りトレードでは、現物取引は行わず、基本的に信用取引を行うこととなります。波乗りの名の通り、相場で売りと買いのポジションを複数持つことによって損益のバランスを取りつつ、利益を出していく手法であるため、空売り（株を保有していない状態で売りのポジションを持つこと）によって売りのポジションを持てるのが条件となるのです。

銘柄の中には、信用取引ができない銘柄も存在するため、いくら倒産しづらく、値動きや出来高が大きい企業であっても、信用取引ができない時点で対象外の銘柄となります。

また、信用取引ができる銘柄であっても、信用買いのみ利用可能であって、空売りができない銘柄も存在するので、この銘柄も対象外の銘柄となります。

つまり、信用取引ができて、尚且つ空売りもできることが絶対の条件となります。Yahoo ファイナンスの銘柄情報を見れば、信用買い残と、信用売り残の株数を見て、信用取引ができるか判断することができます。

CHAPTER2 波乗りトレードが活きる銘柄選び

信用取引情報

信用買残 用語	1,534,400株 (04/25)	信用売残 用語	402,500株 (04/25)
前週比 用語	-229,800株 (04/25)	前週比 用語	+209,800株 (04/25)
貸借倍率 用語	3.81倍 (04/25)		

[信用残時系列データを見る](#)

3. 値動きが大きい

そもそも投資というものは、株価の値動きによって利益を出していくものです。特に波乗りトレードの場合には、上下する相場の中で売りと買いのポジションを複数とって損益のバランスを取っていくものですから、値動きが小さな銘柄では利益を出しにくく、また予測とは逆方向に値が動き、値が戻ってくるのを待とうと思ったときには時間がかかってしまいます。つまり、資金効率が非常に悪くなるのです。波乗りトレードでは小さな利益であっても積み重ねていきながら着実に利益を出していく手法であるため、資金効率の悪さは致命傷となってしまいます。

値動きの小さな企業にはどのようなものがあるのでしょうか。わかりやすいのは電力会社です。電力会社の商品は電気です。電気は顧客の数に大きな増減が出ることはなく、売電価格も定められています。そのため、業績が大きく伸びたり、大きく落ち込んだりすることがないため、非常に安定的であり、値動きが小さいのです。

電力会社を投資の対象とするならば、確かに倒産する可能性は限りなく0%に近いでしょうが、テンポよく利益を確定して行く事ができません。これでは波乗りトレードの取引対象としては不十分です。

では、値動きの大きな企業とはどのような企業でしょうか。それは『輸出企業』です。原材料を海外から仕入れて加工・輸出したり、販売営業所を海外に持っている企業は、商品の対価を現地の通貨で受け取り、それを円に換金する必要があります。そのため、円高・円安といった為替の変動によって、たった1円の差が生じただけでも、企業の業績には何十億円という利益変動が出るのです。この傾向は、世界シェアが大きな企業であればあるほど顕著です。

このため、たとえば世界的自動車メーカーであるトヨタを挙げるならば、いくら販売台数が好調であっても円高に傾けば利益が大きく減ることとなり、反対に販売台数がそれなりであっても円安の追い風があれば利益は大きく増える事となります。このように、為替の変動が企業の業績に与える影響は大きく、業績に影響が及んでいるという事は、大きな値動きが生じているという事です。

以上をまとめると、値動きが大きいという条件を満たすためには、為替の影響を受けて値動きが生じやすい、輸出企業がそれに当たるということができます。

4. 出来高が大きい

出来高は、約定した取引の量を表したものです。出来高が大きい企業は売買が盛んに行われているということであり、スムーズに利益を出していくためには出来高が大きい事は重要な要素となります。いくら倒産しにくく、信用取引ができ、値動きが大きな銘柄であっても、売買量が小さければ投資の対象とはなりません。

試しに出来高が小さな銘柄を取引しようとしたときの例を見てみましょう。

ある銘柄があり、株価が10万円まで落ちてきたので10株買おうと思ったが、実際には10万円では1株しか売られておらず、11万円や12万円といった価格帯で売り注文が入っていたとします。これでは10万円という価格で10株を集める事は難しいでしょう。

仮に時間をかけて10万円で10株を取得したとします。その後株価は上がっていき、20万円まで上がりました。20万円で売ろうとしたところ、自分が売

りたい価格帯では買い注文が全く出でおらず、思ったように売ることができなかった。

つまり、出来高が小さければ自分の予測どおりの値動きとなったとしても、売買が成立しにくいという状況が生まれるのです。株は着たい人と売りたい人が一致して初めて売買が成立するものだからです。

また、自分の資金量に見合った出来高を持った銘柄を選ばなければなりません。1日の出来高が、自分の資金量を越えないということが条件となります。例えば1,000万円の資金を持っていても、1日の出来高が100万円のみであれば、十分に自己資金を活用して行く事ができなくなるということです。

同時に、自分が1,000万円の資金を持っていたときに、出来高が1,000万円あればいいのかというとそうでもありません。なぜなら、1,000万円の出来高に対して1,000万円を運用すれば、自分の資金だけで株価が全て動く事になってしまうからです。このことは、100万円くらいの小額で取引をする場合にはほとんど気にすることは無いものの、例えば1億円くらいで取引をする場合には30億円くらいの出来高があることが望ましいということになります。

自己資金に見合った出来高の判別方法は

$$\text{出来高} \times \text{株価} =$$

この式の解が自己資金よりも大きければ大きいほど、その銘柄における全取引量に締める自分の取引量は小さくなり、より簡単に取引が成立するようになります。100万円や1,000万円といった自己資金を回していく上ではそれほど気にする必要はないのですが、自己資金が大きくなればなるほど、出来高の大きさには注目していきたいものです。出来高が小さい銘柄は意外と存在するものです。

ちなみに、誰もが知っているような有名企業の出来高は大きくなりがちな傾向にあります。これは倒産しにくい安心感から投資する人が多いのであろうという事のほかに、初めて株を始めた人にとっては、投資すべき株の対象としては、身近に存在する商品などから選ぶ傾向にあるからだと思います。

出来高は日々変動するものです。出来高が高い位置を判断基準とするのではなく、低い位置にあるときの出来高を判断基準とすると間違いが置きにくいといえます。

■実際に銘柄を見てみよう

これまで、波乗りトレード活用のための銘柄の条件を詳しく見てきましたが、実際にはどのような銘柄を選べばいいのでしょうか。

企業情報を見ながらその銘柄が相応しいかどうかを判定するわけですが、ここでは実際に何種類かの株を見ながら、判定の仕方を見てみましょう。

○私が取引をしている銘柄

通常株で儲けを出しているとき、自分がどの銘柄を用いて稼いでいるのかということはセコい人間ならば自分だけの秘密としておきたいものです。むしろその投資の対象が単一の銘柄に限られており、5年間に渡ってその銘柄のみで稼ぎ続けているのであれば、なおさらです。

しかしこのたび、波乗りトレードを世に出すに当たって、私はその銘柄をお教えしようと思います。その銘柄は『ブリヂストン』です。私はブリヂストンを投資の対象とすることによって、5年間に渡って、平均年利80%の資産運用を続けてきたのです。この銘柄を公開することはなんら私の不利益になる事ではありません。なぜなら波乗りトレードの手法は、多くの方が同じ銘柄を取引したときには、利益が出なくなるわけではなく、むしろ取引の出来高が増えるため、値動きも大きく動きやすくなり、利益が出しやすくなるからです。

それでは、ブリヂストンを波乗りトレードを行う上での理想的な銘柄のモデルとして、いくつかの銘柄を検証していきましょう。まずはブリヂストンがなぜ理想的なのかを検証するところから始めます。

○ブリヂストン

私がブリヂストンを選んでいるのは、

- ・ 世界一のシェアを誇っている上、車がなくなっても飛行機や電車をはじめとして様々な事業を展開しているので倒産しづらいだろう
- ・ 信用取引ができる
- ・ 値動きが大きい
- ・ 出来高も問題ない

として、条件を全て満たしているからです。それでは本当にそうなのか、ブリヂストンの情報を検証してみましょう。

検証には Yahoo ファイナンスを使います。Yahoo のトップページから Yahoo ファイナンスのページへと進み、株価検索に「5108 (ブリヂストンの銘柄コード)」を入力して検索します。

YAHOO! JAPAN ファイナンス IDでもっと便利に新規取得 ログイン

現在の日時: 5月 2日 11:49 -- 日本の証券市場はあと3時間11分で終了します。

トップ 株式 EX・外国為替 NISA/投信 株価予想 ニュース ローン 金利 企業情報
 株式ランキング 株価表示板 株主優待 決算スケジュール レポート IPO みんなの株式 中国

コードまたは企業名を入力 株価検索 表示形式選択 検索設定

5/10の注目決算 エルロ アイボン EPS コエテック セーレン プルボン ローム もっと見る

ポートフォリオ ログインしてポートフォリオを表示

f シェア ツイート 18 自動更新 | 手動更新

+ 5108 東証1部・ゴム製品 (株)プリチソン 11:30 リアルタイム株価
 3,690 前日比 ↑ +8(+0.22%)

詳細情報 チャート 時系列 ニュース 企業情報 掲示板 株主優待 レポート 業績予想 みんなの

前日終値	3,682 (05/01)	5108.T 5/2 @ 11:30 (C)Yahoo! Japan
始値	3,708 (09:00)	
高値	3,723 (09:03)	
安値	3,684 (11:19)	
出来高	691,300株 (11:28)	
売買代金	2,559,061千円 (11:28)	
値幅制限	2,982~4,382 (05/02)	期間: 1日 1週 1か月 3か月 6か月 1年 ログインするとチャートの期間を保存できます

⌚ 時計アイコンがついている数値は、リアルタイムです。

銘柄の情報がでたら、詳細情報でまず「発行済株式数」を確認します。これはその企業が発行した株の数を示すものであり、これが大きければ売買も大きく行われやすいので、ここの数値は大きくなければなりません。

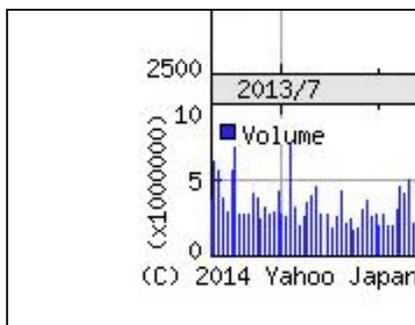
CHAPTER2 波乗りトレードが活きる銘柄選び

ブリヂストンの場合、発行済株式数は 813,102,321 株であり、多いといえます。

板気配 <small>用語</small>			参考指標	
売気配	株価	買気配	時価総額 <small>用語</small>	3,000,348百万円 (11:30)
—	—	—	発行済株式数 <small>用語</small>	813,102,321株 (05/02)
			配当利回り(会社予想) <small>用語</small>	2.17% (11:30)
板気配はYahoo!ファイナンスVIP倶楽部で			1株配当(会社予想) <small>用語</small>	80.00 (2014/12)
注目の情報 ネット株、始めませんか? 松井証券が使いやすいツールと手数料で初心者にも選ばれています。			PER(会社予想) <small>用語</small>	(連) 10.14倍 (11:30)
			PBR(実績) <small>用語</small>	(連) 1.60倍 (11:30)
株取引はGMOクリック証券 現物手数料全額キャッシュバック中 低コストと使いやすいツールが人気			EPS(会社予想) <small>用語</small>	(連) 364.05 (2014/12)
			BPS(実績) <small>用語</small>	(連) 2,305.64 (2013/12)
			最低購入代金 <small>用語</small>	369,000 (11:30)
			単元株数 <small>用語</small>	100株
			年初来高値 <small>用語</small>	4,012 (14/01/16)
			年初来安値 <small>用語</small>	3,402 (14/03/25)
			指標データの切替について	

次に確認するのが出来高です。詳細情報からは本日の出来高を見る事ができ、チャートからは指定した期間内での出来高を見る事ができます。本日のみ飛びぬけて大きい場合や小さい場合も考えられますので、チャートを 1 年で見ても、平均的な出来高を確認しましょう。

ブリヂストンの出来高は最近では平均して 300 万株（株価が約 3,500 円の 2014 年 3 月頃では約 100 億円）くらいであり、これは出来高としては十分なもので、個人の資金で 1 億円くらいは回せる出来高です。このことから、出来高にも問題がないことが分かります。



左の図を見ると、真ん中の線が、500万株、一番上の線が1,000万株となり、平均して約300万株程度の取引があることがわかります。

次に値動きを見ます。チャートを見ると最近では3,000~4,000円くらいの幅で変動しており、過去を長く見ても値動きがそれなりにあることが分かります。

信用取引については、Yahooファイナンスの銘柄情報で、信用買い残と信用売り残の株数を見ることで、信用取引ができるか判断できます。

信用取引情報			
信用買残 <small>用語</small>	1,534,400株 (04/25)	信用売残 <small>用語</small>	402,500株 (04/25)
└ 前週比 <small>用語</small>	-229,800株 (04/25)	└ 前週比 <small>用語</small>	+209,800株 (04/25)
貸借倍率 <small>用語</small>	3.81倍 (04/25)		

[⇒ 信用残時系列データを見る](#)

以上をまとめると、

- ・世界的シェアがあり、倒産しづらい
- ・値動きは 1000 円くらいの幅があり、大きい
- ・出来高は 300~500 万株（約 120 億円以上）くらいあり、十分な大きさである

よって、波乗りトレードに非常に適した銘柄であると判断ができるのです。

・トヨタ

では、次にトヨタを見てみます。トヨタは自動車業界では世界的なシェアを持っているので倒産は考えにくいです。

発行済株式数は 3,447,997,492 株であり、ブリヂストンよりもはるかに多いといえます。出来高は 1,000 万株（株価が約 6,400 円の 2014 年 1 月 4 日現在では約 640 億円）ほどあり、こちらも申し分ありません。

では値動きはどうかと見てみると、500 円くらいの幅を動いており、悪くはないもののブリヂストンなどと比べれば見劣りがします。

よって、

- ・倒産しづらい
- ・出来高も問題ない
- ・しかい値動きがやや物足りない

という事が分かり、決して悪くない銘柄であるものの他にも良い銘柄はあるので選ぶ対象とはなりにくいということができます。

・神戸製鋼

世界的シェアということは考えにくいものの、原材料を輸入して運営される事業である製鉄業はどうなのかを見てみましょう。また、鉄の需要がなくなるということは考えにくいので、この企業が倒産することはあまり考えられません。

発行済株式数は 3,115,061,100 株です。こうしてみるとトヨタと並ぶほどであり非常に多く感じますが、ここで注目すべきは単元株数です。ブリヂストンやトヨタの単元株数は 100 株であるのに対して、神戸製鋼の単元株数は 1,000 株であるため、発行済株式数は表示より 1/10 である約 3 億株として考えます。

値動きは、現在の株価が約 180 円であるのに対し、100 円程度の幅での値動きであるため、値動きは不十分であるといえます。

出来高は 5,000 万株であり、単元株数が 1,000 株なので 500 万株（株価が約 180 円の 2014 年 1 月 4 日現在では約 9 億円）くらいに換算して考えます。

よって、

- ・倒産しづらい
- ・値動きは不十分である
- ・出来高はそこそこである

という事が分かり、銘柄としてはあまりオススメできません。

・三井物産

巨大な総合商社なので倒産は考えづらい企業です。

発行済株式数は 1,829,153,527 株であり、非常にいいといえます。出来高も 1,000 万株（株価が約 1400 円の 2014 年 1 月 4 日現在では 140 億円）くらいあり、取引には十分な量です。

しかし、値動きをみると、1,200～1,400 円くらいの幅で値動きがっており、値動きが大きいとはいえません。

よって、

- ・倒産しづらい
- ・出来高は大きい
- ・しかし、値動きが小さい

という事が分かり、波乗りトレードには向いてない銘柄という事が分かります。

・ホンダ

ホンダは自動車業界において世界的なシェアを持っているため、倒産することはあまり考えられません。

発行済株数は1,811,428,430で十分です。出来高も600万株(株価が約4,300円の2014年1月4日現在では約258億円)くらいの大きさがあり、十分という事ができます。

そして、値動きも1,000円くらいの幅があり、十分な値動きを持っています。

形としてはブリヂストンと似たものを持っており、非常に理想的な銘柄を見つける事ができました。ただし、株価の推移を見てみると、ブリヂストンよりも若干高めであるため、投資する元金はブリヂストンより多く必要になる事から、資金効率はブリヂストンの方が高いといえます。

・日本板硝子

すこし視点を変えて、硝子業界などはどうでしょうか。日本板硝子という企業を見てみましょう。硝子業界では大きなシェアを誇っていますし、ほとんどの国内自動車メーカーと取引があるため、倒産は考えにくいといえます。

発行済株式数は903,550,999株であり、単元株数が1,000株であるため、約1億株くらいであると考えます。出来高は250万株(株価が約130円の2014年1月4日現在では約3億円)くらいとそこそこの大きさですが、これは10万円前後で取引できる低位株であるため、初心者や自己資金が少ない人でも取引ができるからということが考えられます。

値動きを見ると、2009年あたりに暴落し、その後も値下がりを続け、一時は600円を越えていた株価が今では100円前後となっています。そして暴落から4年たった今も回復の兆しが見えません。値が下がるという意味では、

大きな値動きという事になりますが、波乗りトレードの理想は、BOX相場、つまり値幅の上がり下がりがおきている銘柄でなければ利益調整がしにくいいため、このケースであればブリヂストンの方がよいでしょう。

以上をまとめると

- ・倒産は考えにくい
- ・出来高は悪くない
- ・ただし、危険な値動きをしたことがあり、今後も回復の兆しは見えない

という事が分かり、取引対象としては考えられません。

・ソフトバンク

世界的企業のソフトバンクはどうでしょうか。

発行済株式数は 1,200,660,365 株であり、出来高も 1,000 万株（株価が約 9,200 円の 2014 年 1 月 4 日現在では約 920 億円）くらいあり、問題ありません。

値動きをみてみると、今年に入ってから異常な値上がりを見せており、株価が 3,000 円くらいから 9,000 円くらいにまで急に値上がりしています。このような場合、たしかに値動きが大きいのですが、一過性の値動きである事も考えられますので、もっと長期的に見て値動きがどうであるかを判断します。10 年チャートを見てみましょう。すると、やや値動きに乏しいように感じます。

全体的に見て投資の対象としても良い企業ではありますが、ソフトバンクは特殊な会社であるということを考えなければなりません。

例えば、街頭でランダムに選んだ通行人に対して「ソフトバンクの社長はだれですか？」という質問を投げかけたとき、ほとんどの人が「孫正義」と答えることができるでしょう。反対に「ブリヂストンの社長はだれですか？」と聞くと、ほとんどの人が答えられないことでしょう。これが何を表すのかというと、ソフトバンクという会社は孫正義というカリスマが牽引している会社であり、もし病気、不祥事などなんらかの理由で孫正義が退いたとき、株価が急落することが考えられるということです。

そして、一度急落した株価を戻すのには多くの年月がかかるものです。そのため、カリスマが指導している企業には、そういった意味での怖さがあります。波乗り株トレードは「リスクを回避しつつ利益を出していく」手法であるため、ソフトバンクのような特殊な会社は取引の対象とすることがありません。

このように見ていくと、波乗り株トレードを行う上で、どのような銘柄を選べばいいのかが分かったと思います。ここですでに「向いている銘柄である」と分かっているブリヂストンやホンダを対象としてトレードを行っていくのもいいでしょうし、興味があれば自分だけのお宝銘柄を探してみるといいでしょう。

注意すべきは、いくつか向いている銘柄を見つけたからといって、複数銘柄に対してトレードをすることがないようにして下さい。あくまでも波乗りトレードでは、単一銘柄のみを取引する手法だからです。

■私がブリヂストンにたどり着くまで

波乗りトレードが生み出されるにあたって、どうやって銘柄選びの4つの条件が発見されたのか、そしてなぜブリヂストンにたどり着いたのか、それをお話しましょう。

私が株に始めて触れたのは23歳のときでした。大学の頃は遊ぶ期間と決めて存分に遊びぬき、特にやりたい仕事もなかった私は、卒業後も定職に就くことなくアルバイトをしていました。アルバイト先は近場であり、自身が好きな焼き鳥を扱う居酒屋でした。

やりたい、やりたくないに関らずとりあえず就職を試みるのもひとつの手とは思ったこともありましたが、私の人生プランとしては、やりたくもない仕事をやるよりは、アルバイトでもしながらやりたいことをみつけないかと思っていたのでした。

アルバイト店長ではありましたが、週5日、仕込から入って長時間のアルバイトをしても毎月の収入は20万円に達しないくらいのものでした。正直、このままでいいのだろうか、いやいいはずがないという思いがありました。今後の人生において、今のような状況がいつまでも続くという事はなく、歳もとりますし、結婚などもすれば今の収入ではとてもやっていけないということを考えたとき、不安に思うこともありました。

そんな当時、株ブームが起こっていました。狂牛病が騒がれていた当時の事です。狂牛病を発症した牛が現れたことによって、牛肉に対する不安が高まり、ある焼肉屋の株価が300万円から150万へと暴落しました。これをみた私は、「株価というものは、一過性のものでこんなにも落ちるのか。焼肉に対する需

要は必ず戻るだろう。買ってみよう」と思いました。日本人の食文化を考えたとき、焼き肉がまったく消えうせるという事は考えられず、「人のうわさも75日」で、この問題もいつか忘れられるだろう、忘れられた頃にまた焼肉は以前のように食べられるだろうと考えて買うこととしたのでした。これが私の株への初挑戦となります。

買う準備をしているうちに株価は190万円まで戻りました。私はそのタイミングで買いました。すると「人のうわさも75日」どころか、わずか10日にして株価は225万円まで戻りました。10日で35万円もの儲けが出たことに驚きを禁じ得ませんでした。当時、汗水たらして働いて稼ぐ月給よりもはるかに大きな額を、たいした苦労もなく稼ぐ事ができてしまったのです。すごい事だと思って利益確定をしました。

するとその2時間後、狂牛病問題が再燃し、株価は再び暴落しました。2頭目の狂牛病が見つかったのです。「また値戻りするかな、買おうかな」とも考えましたが、「二度あることは三度ある」の格言の元、買うのを控えました。

幸か不幸か、私は初参戦で簡単に大きな利益を出す事ができたため、「株って難しいって聞いてたけど、案外ちょろいな」と思いました。汗水たらして働いたわけでもないのに、ボタン1つで利益が出たのですから、そう思うしまうのも無理ではありません。

しかしこの時には、まだ専業トレーダーを目指すことはなく、株では労力が要らないため、アルバイトを続けながら副業としてはじめ、プラスにしていこうと考えたのでした。

当時は飲食プチバブルが起こっていました。飲食業が上場すると株価は上がっていく傾向がありました。ある飲食業者が上場するとき、私はその株を買お

うと思いましたが、最初に上場した日は値が膨らみすぎて買うことができませんでした。金曜日のことでした。忙しさについつい株のことを忘れてしまい、月曜日にも買うことができませんでした。その後に思い出して値動きを追っていると、株には169万円の値がつき、その後3日で90万円もの値上がりを見せました。

私は「月曜日に買っておけばよかった！何で注文しなかったんだ！」と悔やみました。同時に、「上場する企業はこんなに値上がりするのか」と思い、上場する企業に目をつけるようになりました。当時の私は株に対して深い知識も持っておらず、表面の事象のみに捉われて株に手を出している状態だったのです。

そんなときに、ある映像会社が上場しました。私はこれに飛びつき、180万円の株価で成行買いをしました。さあ、値上がりするぞと思って値動きを見てみると、どうも値動きがおかしいと感じました。180万円から少しずつ値下がりしているのです。「どうしたんだろう？途中から上がるかな？」と思ってなおも動きを見てみると、それからもどんどん下がっていき、51万円まで値下がりをし、大きな損失を出す事となりました。ここに至って、初めて株の怖さを知ったのでした。

「やはり知識がなくては勝てるものではない」と思い、ここから私は株の勉強をはじめ、株の書籍にしたがって取引を始めました。株の入門書、様々な分析手法を勉強できる本、用語集などをもとに勉強し、それらの本に書かれていたルールを忠実に守って取引をしました。しかし、それでは全然勝つ事ができませんでした。200万円を準備して始めたのですが、数銘柄に対して取引をし、全体で損失を生み、準備した資金はなくなっていました。

「そもそも株などで簡単に稼ごうと思ったのがいけなかった。汗水たらして地道に頑張るのがいい」と思って株から手を引きました。株に取り組んだ期間は1年間くらいのものでした。

その頃、アルバイトで知り合った同い年の友人と「将来なにか大きなことがしたいな」と志を熱く語り合っていたのですが、「ならば最終的に行き着くところは違っても、力を合わせて進んでいったほうが目的達成が早くなるだろう」ということで、その友人と様々な事業をやっていました。

色々な仕事をしながら試行錯誤をしていたあるとき、その友人が「株に挑戦すると近道になるのではないか」といいました。私は株で一度手痛い目に遭っているため、株で稼いでいくことの難しさを説いて極力止めるように忠告しましたが、友人も「やれると思う」といって引かなかったため、私も無理強いせず、様子を見ることとしました。

どうせ負けてしまうだろうと思っていたら、友人は利益を出しました。私も最初は利益を出していたため「最初はビギナーズラックで稼げる事もあるんだ。稼ぎ続けるのがむずかしいんだよ」と思っていました。すると友人は株で利益を継続して出す事ができています。不思議に思ってどうやって利益をだしているのか訊ねたら、友人は信用取引を行っているということがわかりました。

当時の私は、信用取引に対して「借金を負わされる」というような怖いイメージを持っていました。信用取引なんてとんでもない、とさえ思っていました。しかし友人はその後も利益を出し続け、1年で1,000万円も儲けをだしました。これはすごいと思い、私も信用取引に挑戦してみることとなりました。

そこから、私は様々な企業への挑戦をしていきました。当時はまだ資金が5分割されておらず、信用取引で全力買い、全力売りを行っていました。そのため、儲かるときには大きく儲かるものの、損をするときには大きな痛手を被ることとなりました。なんとか安定的に稼げる方法はないものかと、リスクヘッジを考えながら試行錯誤を繰り返していきました。

その試行錯誤の中から、取引手法が確立されていきました。売りから入ることもできる信用取引でチャンスを倍に増やす事の重要性、資金を分割し、売りと買いでバランス調整をしていくことによってリスクヘッジを図るという資金管理の方法を確立し、この取引手法を活かす事ができる銘柄を模索するうちに、ブリヂストンに行き着いたのです。

そしてブリヂストンに行き着いた後、そこから選ぶべき銘柄の特性なども発見されたのでした。

どのような業界でも、やはりなにか技術が生み出されるときには、その前提として様々な試行錯誤や失敗の積み重ねがあるものですが、波乗りトレードの誕生に際しても、多くの失敗と試行錯誤がありました。そして手法の確立後も、私は実践によって、この手法を精錬してきたつもりです。

この手法との出会った人は、無限の鉱脈を掘り当てたと思ってもいいでしょう。手法を誤ることがなければ、着実に利益を出して行く事ができます。それではいよいよ、CHAPTER3からは、手法を学んで行く事としましょう。

CHAPTER3 これが常勝・波乗りトレードの 手法だ！

銘柄選びの方法が分かりましたが、より肝心な部分はその銘柄に対して、どのような手法を以てトレードに臨むかということです。いくら銘柄を正しく選ぶことができても、手法を学ばなければ利益を出して行く事はできません。

ここからは、いよいよ取引手法の解説に入っていきます。ただし、やり方が分かったとしても、最初のうちは誰しものが売買判断に迷うものです。そのため、手法を理解したとしても、いきなり実際の取引はせず、過去トレード、バーチャルトレードで練習を積んだ後に、実際のトレードに入るようにして下さい。

■過去トレードをやってみよう

まずは過去トレードでルールの確認をすることから始めます。過去トレードは過去 5 年分の終値のみを見て、自分の好きなように取引を行っていきます。ここでは「資金 5 分割法」、「ポジションを取るときの注意点」、「ポジションの取り方と決済するポイント」といったルールを押さえる事のみが目的であるため、あくまで売り買いのポジションは自分の好きなように取っていただいて構いません。次の日の終値を見ないように注意しながら練習しましょう。

○資金管理の公式

CHAPTER1でも述べましたが、波乗りトレードでは「資金5分割法」という方法を用います。自分の資金を5分割して、最大で5つのポジションを取るという方法です。信用取引では資金の3倍までの取引が可能ですので、自分の資金で1ポジションあたりどれくらい保有できるのかを知るための公式は

$$\text{元金} \times 3 \div 5$$

となり、この解が1ポジションあたりの資金となります。

例えば元金が100万円であれば、

$$100 \text{ 万円} \times 3 \div 5 = 60 \text{ 万円}$$

となり、60万円が1ポジションあたりの資金となります。

もし今株価が3,500円で単元株数が100株の銘柄を取引するならば、1ポジションあたり35万円の資金が必要になるため、100株しか持つことができません。もし株価が2,900円まで下がれば、200株で58万円なので、200株の保有が可能です。60万円以下であれば何株でもかまいません。

ここで大切なのは、60万円を絶対に越えないポジションの取り方をすることです。例えば株価が3,050円の時、200株を保有するためには61万円が必要となります。1ポジションあたりの資金として定められた60万円よりも、わずかに1万円だけ超過してしまいます。このとき、「1万円くらいいいか」と思ってポジションを取るのは厳禁です。たしかにそのようにポジションを取れば利益が出たときに儲けは増えるかもしれませんが、それに伴って

リスクも大きくなる事を忘れてはいけません。

資金5分割法はあくまで「リスクを回避しながら利益を出していく」ための方法であるのに、1ポジションあたりの定められた資金を越えたポジションを取ったならば、いつの間にか本来の目的が替わってしまい、リスクヘッジのための意味がなくなってしまいます。

本来の意味を忘れ、ルールを無視したトレードをしていれば、いくら秀逸な手法であっても利益を出し続ける事はできません。ルールは厳格に守られるべきです。

ちなみに、なぜ5分割なのか気になる人もいるかもしれません。なぜ3分割や7分割ではなくあえて5分割なのか。これは単純に、リスクヘッジをしながらある程度の利益を出していけるのは何分割したときなのかを考えたときに5分割がベストであったからです。どれくらいリスクヘッジになるのかはCHAPTER1でも触れましたが、5ポジションのすべての予測が外れる確率は1/32という低さであり、仮にいくら予測をはずしたところで、後のポジションの調整でいくらでも利益を出して行く事ができるのです。5つのポジションは買いと売りを混ぜて保有しているため、勝てる確率が非常に高くなるのです。

波乗りトレードの目指すものは利益を大きく出す事よりも、負けないことのほうに重きをおいています。利益が少なすぎるということはなく、リスクを負いすぎないという手法であり、着実に長く利益を出していくのが5分割法なのです。

注意すべきは、発注する際に操作のミスやなんらかの誤りによって、発注株数を間違えない事です。パソコンや携帯を用いてのトレードになりますから、たとえ入力ミスをしていても、発注を確定してしまえば機械的に処理されてし

まいます。本来は 100 株を持つと思ったとしても、間違っ 1000 株と入力してしまえば、資金 5 分割法は崩れてしまいます。発注の際にはよく注意しましょう。そのほか、買いと売りの押し間違いをしたり、信用取引をしたつもりが現物取引をしてしまったなどという失敗も起こる可能性があるので注意して下さい。

○ポジションを取るときの注意点

(注意点 1)

さて、売りと買いのどちらのポジションをとってもかまわないトレード手法ですが、ポジションの取り方に関してひとつだけ大きな注意点があります。それは概要でも少し触れましたが、5 ポジションの全てを同一方向で取る事です。

つまり「買い・買い・買い・買い・買い」や「売り・売り・売り・売り・売り」といったポジションの取り方をすることです。これではリスクヘッジのための 5 分割法を活かす事ができません。5 分割法でポジションを取るときには、5 つのポジションのうち、最低ひとつは反対方向のポジションがなければならぬのです。

例えば、今の株価が 3,000 円で、値上がりすることを予測して買いポジションを取ったとします。すると予想とは反対に値下がりし、2,900 円になりました。そこで、次は反発するんじゃないかと思って再び買いポジションを取りました。それから値下がりし、株価は 2,800 円まで下がったので、次こそは値上がりするだろうと考えて買いポジションを取りました。すると株価はなおも値下がりして 2,700 円になりました。もうそろそろ値上がりをするはずだと思って、ここでも買いポジションを入れました。その後、株価はまだ下がり続けて 2,600 円になりました。このときどうするかという事です。

今保有しているポジションをまとめると、

3,000 円	買い
2,900 円	買い
2,800 円	買い
2,700 円	買い

であり、今の株価は 2,600 円です。「もう次こそ値上がりするはずだ。“絶対に”値上がりするはずだ」と思ったときにも、買いポジションを取ってはいけません。どれ程その予測に自信があったとしても、あえて反対のポジションをとる必要があります。もしここで自信があるからといって買いポジションを取ってしまうと、それから更に値下がりをしたときに手も足も出なくなってしまい、値が戻ってこなかったときには大痛手を被ることとなります。そこで、5 ポジション目は売りポジションを取り、全体では

3,000 円	買い
2,900 円	買い
2,800 円	買い
2,700 円	買い
2,600 円	売り

とします。ここから予測どおり値上がりを始めた場合、2,600 円の売りポジションからは損失が出ますが、他の買いの 4 ポジションから利益が出るので、トータルでは利益を取ることができます。2,600 円の売りポジションはもしもの

時のための保険と考えましょう。

もし2,600円の売りポジションを持った後、さらに値が下がるようであれば、利益の出ている2,600円の売りのポジションと、損失の出ている2,700円の買いポジションの差額、100円に抑えた形で、一旦ロスカットします。そうすることで2ポジション分余裕ができるので、それを利用して調整していきます。

(注意点 2)

また、もうひとつの注意点として、資金力に応じてポジションごとに保有する株数は変わりますが、あるポジションでは100株、あるポジションでは300株、あるポジションでは200株、あるポジションでは400株、というふうに株数をバラバラにするのは避けてください。ポジションの管理が大変になってしまい、バランス調整が図りにくくなります。

(注意点 3)

資金5分割法でバランスを取るとき、同一方向のポジション同士は、できるだけ株価を離してとるようにしましょう。例えば3,000円の買いポジションを持っているとき、3,010円の買いポジションを持つことは、バランスを取る意味においてほとんど役に立たないことなのです。ポジションの枠が1つ埋まるだけ損というものです。

ただし、決算発表がよく値上がりが予測されるため、買いポジションを増やしたいなどというときには、近い値同士で同一方向のポジションを持つことも考えられます。そのときの状況に応じて臨機応変なポジションを構築していきましょう。

○ポジションの取り方と決済のポイント

では、資金を5分割したならば、最初の1ポジションをどのように取っていくかを学びましょう。波乗りトレードでは、1日の取引は基本的に1回までであり、終値を見て買いか売りを判断していきます。

現在の株価を見てポジションを取るとき、一体買いのポジションをとればいいのか、売りのポジションを取ればいいのか、何を基準として判断していけばいいのか、色々と思うことはあるでしょう。たしかに、通常のトレード手法ではこれは非常に重要な問題です。ここで予測を当てなければ利益を出す事はできず、損失の拡大を防ぐためにもロスカットを早めにするのが教えられます。だからこそ、テクニカル分析やファンダメンタルズ分析の重要性が説かれ、株で稼ぐという事が難しくなっていたのです。

しかし、波乗りトレードは違います。ポジションを取るとき、買いと売りのいずれのポジションを取るか。それは、

「どちらでもいい」

のです。冒頭で述べたとおり、自分の好きなようにポジションを取ってください。どうしても決められないという人は両建てで2ポジション取ってかまいません。両建てとは、現在の株価で買いと売りの両ポジションを同時に取る事をいいます。こうすることで、どちらに値動きがあっても利益を取る事ができます。

これを聞くと多くの人が首をかしげるでしょう。どちらかのポジションを取るという事は、必ず1/2の確率で予測とは反対の値動きとなるため、どちらでもいいというのは非常に矛盾した主張に聞こえるからです。

波乗りトレードは柔軟です。一時期では含み損を出す事は当然であると考え、通常ならば嫌われる含み損に対してそれほど敏感にはなりません。含み損はその時点で決済した際には損失として計上されますが、相場が動いて含み益に転じてから決済すれば利益になるのです。

そのため、波乗りトレードでは、直近では予測と反対の値動きとなって含み損を抱えても、信用取引の取引期間である6ヶ月以内に利益を出す事ができればいいと考えます。

例えば現在の株価が3,000円であったとします。1ヶ月後に決算発表があり、おそらくそれによって株価が上がるだろうということが予測されます。その場合には買いでポジションを持っておけばいいのです。そのポジションを保有した後に株価が2,800円、2,700円と値下がりをして含み損が大きくなったとしても、なんら恐れる必要はありません。

逆に、このときがちょうど下げ相場であり、直近に視点を当てるならば今後とも株価が下がりそうなので、そこで利益を出したいと思えば売りのポジションを持つのもいいでしょう。そして数日のうちに株価が下がったのを見計らって利益を出す事ができます。

このような理由で、波乗りトレードではポジションを持つ際に買いと売りのどちらのポジションを持ってもいいのです。

では、数ヶ月後に株価の上昇を予測して買いのポジションを持ったところ、その予測とは逆の値動きをしたときにはどうすればいいのでしょうか。大抵の場合には株価は戻ってくるため狼狽売り（予測と反対の値動きにびっくりして売り急いでしまう事）はせずに待ちます。ただし、値下がりの要因が天災であったり、企業の不祥事であったり、どうしようもない値下がりを見せ、再び値を戻すには何年かかるか分からないという場合には、ロスカットをする必要が

あります。

これは東日本大震災後の東電などがいい例であり、東電がかつての株価まで値を戻すには何年かかるか分からず、取引期間を6ヶ月までと定められている信用取引の期間内には値を戻す事が望めません。そのときにのみロスカットをします。ただし、ロスカットする前に、売りを持っていれば、そこで利益を出すことができます。その売りのポジションで利益を獲得した後、買いのポジションが残ってしまい、それでも全く値を戻す事がなかった場合に初めてロスカットとなるわけです。このような状況はそうそう起こることではなく、したがってロスカットを行うこともほとんどないことだと思っていいでしょう。また、仮にロスカットを行う羽目になったとしても、そのごくわずかの機会に遭遇するまでには、そのロスカットにも動じないだけの大きな利益を積み重ねている事と思います。

決済のポイントは、予想通りの値動きをした際にはより多くの利益を求めることなく、手数料を加味した上で、「利益が出たら決済する」ということを考えてください。利益が出たそのときが、決済のポイントです。この決済のポイントをマスターするには、実際に過去トレードで色々なパターンを試すのが良い方法です。例えば、過去半年間の終値のデータを使って、過去トレードをやる場合に、今回は、50円利益がでたら決済してみよう、次回は70円とか、その次は20円とか、利益を確定する金額を自分の中で変えながら過去トレードをやってみます。そうすると、結局いくらで利益を確定していった方が、最終的に利益が残るのが分かってくると思います。

波乗りトレードでは「相場がこの動きだからエントリーする」あるいは「こ

の動きだからエントリーしない」などというものはほとんどなく、エントリーをするタイミングはそれほど重要とはなりません。これが波乗りトレードが従来のトレード手法より優れている点なのです。

様々な分析などを用いながら、高度なトレードをしている人もいるでしょう。それに対して波乗りトレードではそのような複雑な事はしません。そして、どちらが確実に勝っているかを考えれば、波乗りトレードのほうが確実に勝ちを重ねているのです。

なんら難しい方法ではないため、ルールを守って行く事さえできれば、誰でも利益を出す事ができます。すでに経験豊富な人や今まで勝ってきた人がこの手法で勝っているわけではなく、むしろ株に関してずぶの素人が、もしくは負け続けてきた人が勝てるようになっているのです。実際に私が教えてきた人というのは、これまで負け続けてきた人、始めて株をやる50歳の人、始めてやるパティシエの女の子、学生、証券マン、皆利益を出す事ができるようになっています。老若男女だれでもできるのが波乗りトレードなのです。

●まとめ

過去トレードは、1年分を最低2回は行ってください。もし利益が出なかったときには、

- ・利益を待ちすぎているか（利益が出ているのにも関わらず、より大きな利益を狙って決済を遅らせていないか）
- ・含み損が出たとき、焦ってロスカットをしていないか

を見直してみてください。大抵の場合において、過去トレードで利益が出ない人はこの2点のどちらか、または両方の過ちを犯しているものです。そして見直した後、再び過去トレードに取り組んで見ましょう。

順調に利益を出す事ができた人は、利益が出た際にすぐに決済をするパターンと、少し待ってみるパターンで1年間やってみて、どちらがより多くの利益を出す事ができるかを検証してみてください。色々な発見があると思います。

過去トレードをやってみていかがでしたか？なんとなくポジションの調整に、いくつかのパターンが見えてきたのではないのでしょうか。「利益調整のテンプレート」によって、それらのパターンを詳しく見て行く事としましょう。

■利益調整のテンプレート

勘のいい人は過去トレードを通じて気付いたかもしれませんが、波乗りトレードでは「買い・買い・売り」もしくは「売り・売り・買い」というように、複数のポジションを買いと売りのバランスを取りながら利益を調整しています。複数ポジション取った形として最も基本的な形が、この3ポジションを持った状態です。これを「利益調整のテンプレート」と呼び、このテンプレートを用いる事が波乗りトレードの基本となります。

基本は利益が出たら決済をするということにあるので、買いを入れて値上がりする、もしくは売りを入れて値下がりしたときには問題ありません。問題は予測が外れたときにどうやって利益を出すかという事です。予想が外れた場合、まずはじっくり待ちましょう。株価というのはある程度波があります。永遠に一方方向に上がり続ける、下がり続けるというケースはほとんどありません。待っている間に、他のポジションを持ちながら利益を積み重ねていけばいいのです。

普段の取引はそれで、問題ありませんが、この「利益調整テンプレート」を意識する時は、含み損を抱えたポジションを4ヶ月くらい保有し続けている時です。信用取引の場合、最長6ヶ月間保有する事ができますから、残り2ヶ月しか保有する事ができません。この時初めて「利益調整テンプレート」を意識していきます。

保有期間が残り2ヶ月の場合、最悪、ロスカットになるかもしれませんが、この利益調整テンプレートを使って、他の利益が出ているポジションと組み合

わせて決済する事で、マイナスで終わることなく、あわよくばプラスで決済をする事が可能になります。このように決済できれば、残り2ヶ月だったポジションがなくなり、また新たにポジションをもって取引を行う事が可能になるわけです。では、具体的にどのようなポジションの時に、どう考えていくのかケーススタディーを見ていきましょう。

【ケース 1】

株価が 3,000 円のとときに買いのポジションを取りました。その後株価は 2,900 円に下がり、それ以上に下がりそうな気がしたので売りのポジションを取りました。株価は 2,700 円まで下がったので、ここでも売りのポジションを入れました。ここで現在保有しているポジションを整理すると、

3,000 円	買い
2,900 円	売り
2,700 円	売り

この手法で重要な部分ですが、見るべきポイントがあるので覚えておきましょう。それは「保有しているポジションのうち、もっとも近い売りと買いのポジションの差額」です。この場合に最も近い売りと買いのポジションは、「3,000 円の買いポジション」と「2,900 円の売りポジション」であり、この2つの差額は 100 円です。このとき、売りのポジションを2つ持っているため、株価がより値下がりすれば利益が出やすいため、この差額分をポジションの中でも最も安い株価（2,700 円の売りポジション）から引いた額である 2,600 円に注目します。

CHAPTER3 これが常勝・波乗りトレードの手法だ！

株価が 2,600 円以下に下がれば、必ず利益が出ることとなります。例えば、2,500 円まで下がったならば、

3,000 円の買いポジションでは -500 円

2,900 円の売りポジションでは +400 円

2,700 円の売りポジションでは +200 円

となり、トータルで 100 円の含み益が出ることとなります。このように、1 つ目のポジションで予測をはずしたときにはそれ以降のポジションで利益が出るように調整をしていきます。

そして、「保有しているポジションのうち、もっとも近い売りと買いのポジションの差額」を見ることによって、「株価がどこまで値下がり（あるいは値上がり）すれば、含み損を抱えたポジションを含めたトータルで利益が出るのか」ということを正確に判断する事ができます。波乗りトレードでは、含み損を抱えた状態でもロスカットをすることなく、いかにして利益に転じていくかということを重視しているため、このようにして「利益が出る株価」を知ることが非常に大切になります。

【ケース 2】

株価が 3,000 円のとときに買いのポジションを取ったところ、株価が 2,700 円まで下がったので、それ以上の値下がり懸念して売りポジションを取りました。すると予測がまた外れ、株価は 2,800 円まで値上がりしたので、そこで売りのポジションを取りました。ここでポジションを整理すると、

3,000 円	買い
2,800 円	売り
2,700 円	売り

となります。ここで、パターン 1 で学んだとおり、「保有しているポジションのうち、もっとも近い売りと買いのポジションの差額」を見ます。ここでは 3,000 円の買いポジションと 2,800 円の売りポジションが最も近く、この差額は 200 円ということが分かります。そして、保有するポジションの中で最も安い株価（2,700 円）から差額分を引いた 2,500 円以下に株価が推移すれば利益が出るということが分かります。例えば株価が 2,400 円に下がったとき、

3,000 円の買いポジションでは -600 円
2,800 円の売りポジションでは +400 円
2,700 円の売りポジションでは +300 円

となり、トータルで 100 円の含み益が出るということが分かります。含み損がそれほど恐れるに足りないものだということが分かると思います。

【ケース 3】

もう一例だけ見てみましょう。

株価が 3,000 円のとときに買いのポジションを入れたところ、2,700 円に下がったので売りのポジションを入れました。すると予測はずれ、株価は 3,100 円に上がりました。買いポジションをとったこのときのポジションを整理すると、

3,100 円	買い
3,000 円	買い
2,700 円	売り

となります。ここでパターン 1、2 と同様に「保有しているポジションのうち、売りと買いで最も近いポジションの差額」を見ます。ここでは 3,000 円の買いポジションと 2,700 円の売りポジションとの差額であり、その差額は 300 円です。パターン 3 の場合には買いポジションを 2 つ取っているため、より値上がりしたときに利益が出るため、買いポジションの中で最も高い額である 3,100 円よりも 300 円高い 3,400 円以上になったときに利益が出ると見る事ができます。仮に株価が 3,500 円になったとき、

3,100 円の買いポジションで +400 円
3,000 円の買いポジションで +500 円
2,700 円の売りポジションで -800 円

となり、トータルで 100 円の含み益となる事が分かります。

パターンを3つ見てきましたが、これがポジションの取り方の基本形であり、このようなトレードを行うことによってトータルでの損失を防ぐということなのです。つまり、株価の推移と自分の保有するポジションに応じて新たにポジションを持つことで損失を出さないように利益調整をしていくのです。

一般的な手法ではこれからの株価の予測のみで損益を考えるのに対し、波乗りトレードではすでに起こってしまった株価の推移に応じて調整していくため、いわば「後出しジャンケン」のようなものであり、負ける確率が極めて低い手法となっているのです。

基本となるのはポジションを3つ保有したときの利益調整の方法であり、これが分かれば、これ以上にポジションが増えた場合でも応用する事によって利益を着実に出して行く事ができます。その例をひとつだけ見ておきましょう。

【ケース 4】

株価が 3,000 円のとときに買いのポジションを取ったところ、2,700 円に下がったので売りのポジションを取りました。すると 2,800 円に値上がりをしたので、ここでも売りのポジションを入れました。予測はずれ、株価は 2,900 円まで上がってしまったとします。ここまで3つのポジションは全て予測が外れたこととなります。しかし焦る必要はありません。

2,900 円では買いのポジションを入れました。そのご株価は 3,100 まで値上がりをしたので、更に上がる事を期待して買いポジションを入れました。ここにいたって5つの全てのポジションを使い果たしたわけですが、現在のポジションを整理すると、

3,100 円	買い
3,000 円	買い
2,900 円	買い
2,800 円	売り
2,700 円	売り

となります。この場合にも「保有しているポジションのうち、もっとも近い売りと買いのポジションの差額」を見る事となりますが、5 ポジションを保有しているときは、3,000 円と 2,900 円の買い注文をかたまりとしてみたものと、2,800 円と 2,700 円の売りポジションをかたまりとしてみたものの差額を見ます。つまり、5,900 円と 5,500 円の差額を見るため、差額は 400 円となります。

このとき、現在の株価がより値上がりしていくとトータルでの利益が出るため、3,100 円よりも 400 円高い 3,500 円以上の株価になったときに、5 ポジションのトータルで利益が出るということが分かります。

もし 3,500 円まで値上がりしそうにないと思ったときには、3,000 円と 2,900 円の買いポジションを決済する事で、利益を確定する事ができます。

仮にこのとき、3,500 円までの値上がりを期待して待っていたところ、株価が再び 3,000 円まで値下がりをしたとします。このとき、3,000 円と 2,900 円の買いポジションを決済し、とりあえず 100 円の利益を確定しました（なぜここで±0 円の 3,000 円のポジションを決済したのかというと、ポジションの枠を空けることでより柔軟な動きができるようにするためです）。

続いて株価は 2,900 円まで下がったため、売りポジションを取りました。つまりこのときのポジションを整理すると、

3,100 円	買い
2,900 円	売り
2,800 円	売り
2,700 円	売り

となります。この場合には本来 4 ポジション持っているわけですが、3 ポジションのみを決済の対象とすることもできます。つまり、

3,100 円	買い
2,900 円	売り
2,800 円	売り

の 3 ポジションの中で決済してトータルでの利益を求める事もできるということです。この場合のもっとも近い売りと買いのポジションの差額は 3,100 円の買いポジションと 2,900 円の売りポジションの差額である 200 円となり、2,800 円よりも 200 円低い 2,600 円以下になったときに 3 ポジションのトータルで利益の出る決済をすることができるのです。

もし 4 ポジションのトータルで利益を出すためには 2,500 円以下まで推移しなければならなくなるため、そこまで待っておいてもいいのですが、より近い位置で含み損を解消しておきたいと考える場合には、4 ポジションのうち 3 ポジションのみを決済の対象として考える事もできるのです。

CHAPTER3 これが常勝・波乗りトレードの手法だ！

ここになって、2,900 円の売りポジションを取った真の理由も明らかになります。それは、2,900 円のポジションを取る前と取った後を見比べるとよく分かります。

2,900 円の売りポジションを取る前には

3,100 円	買い
2,800 円	売り
2,700 円	売り

という 3 つのポジションを持っており、トータルで利益を出す場合には 2,400 円以下まで値下がりをしなければならないという事が分かります。現在の株価は 2,900 円であるため、そこから 500 円の値下がりをするのは難しいだろうと判断した場合、2,900 円の売りポジションを取り、4 ポジションのうち 3 ポジションを決済の対象とすることによって、

3,100 円	買い
2,900 円	売り
2,800 円	売り

となり、株価が 2,600 円以下にまで値下がりすれば 3,100 円の買いポジションの含み損を消す事ができるのです。

これは慣れるまでの間はなかなか難しいテクニックかもしれませんが、一般的な方法で株取引をするよりははるかに容易な方法です。取引の練習をしながらぜひ使えるようになってください。

安全にトレードしていくためにも、このテンプレートを使いこなせるようにならなければなりません。これを頭で理解したならば、過去トレードを通じて最低 10 回は練習するようにしましょう。

この次はバーチャルトレードによって、実際に売買の判断基準を設けて取引をしながら、より深く手法を学んでいきましょう。

■バーチャルトレード

過去トレードで、ポジションの取り方まで学んできました。ここからは実際の相場を見ながら、バーチャルトレードを行います。バーチャルトレードでは、売買の判断材料として、ファンダメンタルズを用います。過去トレードでは実際に自己資金を運用しないため、思い切った取引ができるのですが、いざ実際に資金を運用していく取引となると、売買の判断材料がなければポジションを取りにくくなることが多いからです。

ファンダメンタルズは、あくまで判断材料として使うだけだと認識しておいてください。ファンダメンタルズで売買判断をし、予測が当たればそれに越した事はなく、はずれてもポジション調整によって利益を出していくというのが、波乗りトレードの本来のスタンスです。

バーチャルトレードの目的は、波乗りトレードの手法を用いる事で、利益がどれくらい出て、含み損はどれくらい出るのかということ体を感ずる事と、売買判断の基準を学ぶ事です。

それではバーチャルトレードを始めましょう。ここでも、過去トレードで用いた練習用シートを使ってください。

Yahoo ファイナンスのページにいき、自分が取引する銘柄を見ます。見るタイミングは市場が終った 15 時から翌日の市場が開かれる 9 時までの間です。

過去トレードの条件は資金を 100 万円として行います。買いのポジションを取ったときには終値の欄に終値と共に○と書き、売りのポジションを取ったときには終値と共に×と書きます（例えば、その日の終値が 3,000 円であり、買いのポジションを取ったならば「3,000 ○」というように書きます）。信用取引を行うため、1 ポジションあたりに使える資金は 60 万円までとなります。

ポジションは必ず毎日取らなければならないという事はありません。値上がりするか値下がりするか判断が付かない、などというときには見送る日があってもかまいません。ともかく、1日1回やる習慣をつけるようにしましょう。

○売買の判断材料

判断材料を用いて、値動き予測していくに当たってのポイントは、大局を見るという事です。大局とは最長の取引期間である6ヶ月先までの大局のことで、買いまたは売りの予測が6ヶ月のうちに当たればよいとします。もちろん、6ヶ月後などのことはとても想像できない、という人はもう少し近いところを予測してもかまいません。実際に波乗りトレードでは、保有したポジションを2ヶ月や3ヶ月経ってから利益確定することは良くある事です。

目先の値上がりや値下がりばかりを見てはいけないという事です。大局を見て、1週間後や1ヶ月後に値上がりをするのであれば買いのポジションを持っておきます。人によっては、売買の根拠をしっかりと持つておくことによって、含み損を抱えたときにも「いずれ値上がりする含み損だ」と思えることによって正常なメンタルを保つ事ができるでしょう。

○売買判断の基準のポイント

1. 日経平均株価

日経平均株価とは、日本に上場している株式の主要銘柄の株価をあらわした数値のことをいいます。これを見る事によって、全体的な市場環境や市場の流れを把握する事ができます。それほど神経質にならず、なんとなくトレンドの上昇と下降をつかんでおく、という程度でいいでしょう。

2. 決算発表

決算発表は1年に4回あります。これは、企業の業績がどうであったかをあらわすものです。各企業のホームページを見る事によって、決算発表の内容を知ることができます。ちなみに、決算発表の日は各企業によって違うので、取引をしている企業の決算日は正しく把握しておく必要があります。

信用取引では最長6ヶ月に渡ってポジションを保有する事になるため、その6ヶ月の間には決算発表が2回訪れる事となります。決算発表の良し悪しによって、相場には大きな流れが生まれるため、決済のポイントとなる事も多く、また大きく利益をだすチャンスともなります。決算発表を押さえておくことで利益が出しやすくなるでしょう。

決算発表で株価が大きく動く可能性があるならば、決算発表の良し悪しは事前に少しでも知りたいものです。事前に良し悪しを予測する方法はいくつかあります。

まず、上方修正や下方修正に注目するというものです。上方修正とは、予測していた業績よりも上回った場合に出される発表です。定められた一定の基準よりも業績が上回った場合には、上方修正という発表を出さなければな

らない決まりとなっています。下方修正はその逆であり、予測していた業績よりも下回った場合に出される発表です。定められた一定の基準よりも業績が下回った場合には、下方修正という発表を出さなければならない決まりとなっています。

つまり、事前に上方修正が出された場合には、買いポジションを多めに持っておく、あるいは事前に下方修正が出された場合には売りポジションを多めに持っておくなどという予測とポジション構築ができるわけです。

決算の良し悪しは、為替から予測する方法もあります。輸出企業は円安や円高に大きな影響を受けるからです。各企業では決算のたびに「想定レート」というものを打ち出します。想定レートとは、予算を立てるために想定された為替レートのことであり、今回の決算に臨んで想定レートに対して実際の為替レートはどうかを見る事によって、決算発表の良し悪しを予測する事ができます。

つまり、想定レートよりも円安になれば想定よりも大きな利益が出て業績は伸びることとなり、想定レートよりも円高になれば想定より利益は小さくなり、業績は伸び悩むこととなります。

想定レートは各企業のホームページで確認する事ができます。また、分からない場合には電話をすれば教えてもらう事ができます。

企業ごとに決算日は違うため、同業種が自分が取引をしている銘柄よりも早く決算発表を出したときには、非常によい資料となります。同業種とは、例えばブリヂストンならば同じくゴム関連の企業である東洋ゴムなどです。

同業種では、業績に大きな違いはでない傾向にあるため、同業種の他の企

業の決算発表がよければ値上がりを予測して買いポジションを増やす、悪ければ値下がり期待して売りポジションを増やすなどという事ができるのです。

3. 為替

輸出企業や海外に工場・販売店を持っている企業は、売上を外貨で受け取り、それを日本円で換金する必要があります。そのため、換金するとき円安であるか円高であるかで、利益に大きな差が出る事となります。

円安とは外貨に対して円の価値が下がる事であり、円高とは外貨に対して円の価値が上がる事をいいます。当然円安のほうが輸出企業にとってはプラスになります。為替の変動は軽視できない問題であり、たった1円の変動で企業の業績に数十億円の影響を与える事となります。

為替の変動に影響を与えるのは、経済指標です。とくにアメリカの経済指標が重要であり、これによって為替が変動し、日本株式にも影響を及ぼします。やはり世界の基軸通貨はドルであり、市場環境の中心をなすものはアメリカ経済なのです。

経済指標には実に様々なものが存在しますが、アメリカの雇用統計、日銀の金融政策決定会合、FOMCの3つ程度を見ておけば十分でしょう。これらは毎月発表されるものですから、予測的中の確率を高めたいならば見ておいて損はないでしょう。

① 雇用統計

雇用統計は経済指標の中でも最も重要なものです。雇用統計の中でも特に注目すべきなのが、非農業部門雇用者数と失業率です。他の情報として、週平均労働時間や時間当たりの平均賃金などにも注目しておきましょう。

雇用統計は、市場予想とのずれが大きくなることもあるので、予想とは違う値動きになる事もしばしばです。為替相場を最も大きく動かす指標なので、見落とさないようにしたいものです。

雇用統計では、当月分の数値が発表されるだけでなく、当月の数字と共に前月と前々月の修正値も発表される事となっています。前月・前々月分の修正値も相場を動かす材料となるので、こちらにもあわせて注意をはらっておきましょう。

雇用統計こそが、全ての経済指標の中で最重要なものであり、経済指標の王様とも言えるものです。その影響は為替相場のみにあるのではなく、金融市場全体に影響を与えるものとして、発表日である毎月第一金曜日は金融市場にとってビッグイベントであり、FX トレーダーたちの間では毎月のようにお祭り騒ぎになるほどです。

発表後、一瞬にして1円以上の値動きがあることも珍しくなく、値動きを予測しながらポジションを取っていくならば、雇用統計は見ておいて損はないでしょう。雇用統計の影響力は発表の3日前から始まり、発表後3日まで続くほど大きなものです。

② 日銀金融政策決定会合

これは、日銀の最高意志決定機関である「日銀政策委員会」の構成員によって、毎月開かれる会合です。この会合の決定によって、金融政策が実施されることとなります。金融政策とは、物価の安定、金融システムの安定などのために、通貨と金融の調整を行うことです。したがって、金融市場を通じて資金の量や金利への影響があります。

日銀の金融政策の基本的な方針が、金融政策決定会合で決められています。月に1回、もしくは2回開催されており、日銀総裁と日銀副総裁、そして審議委員の合計9名で経済情勢を分析し、その上で金融政策の方針を多数決によって決めています。日銀の金融政策はこの会合での決定に沿って行われます。

金融政策決定会合が終ると、会合での決定事項は「金融経済月報」として公表されます、会合当日には基本的見解の発表が行われ、より詳しいところは翌営業日に公表されます。この金融経済月報は、日銀の景気に対する見解をタイムリーに確認する事ができる経済指標として、見ておいて損はないものです。

会合の役1ヶ月後には「議事要旨」が発表されます。この部分は専門的となるので、強いてみる必要はないでしょう。よりの確なファンダメンタルズ分析をしたいと思う人は見てもいいというものです。

③ FOMC

FOMCとは連邦公開市場委員会の事であり、この機関はアメリカで実施されている金融政策や公開市場操作の方針を決定している機関です。アメリカの金融政策に関して、最高意志決定機関とも呼べる委員会です。

FOMCは年に8回開催されています。ここで公開市場操作の方針が決定され、決定された基本方針はニューヨーク連銀にむけて発表・指令されます。政策金利発表は最終日の3~4時頃に発表されますが、この政策金利発表は今後のアメリカの金融政策を予想する材料となるため、FX投資の判断材料ともなります。そのため、政策金利の発表のよし悪しによって、為替が大きく変動する事があります。

以上の3つが重要な経済指標であり、経済指標によってファンダメンタルズ分析を行いポジションを取っていきたいという人は、これに注目しておくといいでしょう。これ以上の経済指標はあまり必要ないと思われれます。ちなみに、私も経済指標を見るときには、この3つのみを見るようにしています。

4. NY ダウ

これはアメリカで上場している株式の主要銘柄の株価を現した数値のことを言います。日経平均株価のアメリカ版と思えばいいでしょう。NY ダウも経済指標に反応するという特徴を持っています。

例えば

雇用統計の発表が、失業率が高いなど内容が悪いものだった

→市場関係者は『アメリカ経済はよくなさそうだ』と判断する

→NY ダウが下がってくる

→為替もこれに反応する

→為替市場で危機感が募り、円が買われる

(日本の経済は非常に安定しており、有事の際にはリスクヘッジのために
円が買われる風潮がある)

→円高になる

という流れが生まれるわけです。当然円高になれば日本の輸出企業は打撃を受け、株価にも影響があるのです。また、日経平均は NY ダウにつられやすく、NY ダウが下がると日経平均も下がりやすいという傾向があります。

以上の理由から、NY ダウはポジションを取る際の判断材料にすることができます。NY ダウの取引時間は夏時間ならば 22:30~5:00、それ以外のときは 23:30~6:00 となっています。したがって、NY ダウを判断材料とするならば、NY ダウが終わってから日本市場が始まるまでの間に NY ダウの終値を知っておくといいでしょう。

5. CME

CMEとは日系先物取引のことです。日経平均はCMEにつられることも多いのですが、だましも多いのであくまで目安として考えたほうがいいでしょう。

※売買の判断材料として、気配値は見てはいけません。気配値の中には見せ玉というものが存在します。見せ玉とは、買う気のない銘柄にたいして大量の買い注文を入れて、他者がそれ以上の価格で買い注文を入れ始めたら一気に売り抜けるという詐欺の一種です。気配値にはこの見せ玉がよく存在するため、判断材料としては全く用を成しません。見ればだまされる可能性があるので、初めから見ないほうがいいでしょう。

以上に述べたとおり、日経平均株価、決算発表、為替、NYダウ、そして参考程度にCMEを見る事によって、ポジションの予測が的中する確率を上げることができます。これらの重要度や優先順位は時と場合によって変わってくるものなので、ケースバイケースで優先してみるものを変えていくといいでしょう。例えば、決算発表の日が近いならば、なんらかの経済指標が発表されたとしても、決算発表のほうを重視するといった塩梅です。

ちなみに、これらの判断材料がすべて好調に見えるときでも、100%値上がりするわけではなく、あくまで売買判断が的中する確率を上げるというだけです。予測が外れることも当然ありますが、そのときにはポジションでバランス調整をしていきます。

また、ここで紹介した売買判断基準は私が基準にしているものであり、あくまで一例です。模倣してもいいでしょうし、自分なりの判断基準ができればそちらを使ってもいいでしょう。

○判断材料を用いての取引例

それでは、私が実際に行った取引をしてみることで、どのようなことを根拠としてポジションを取ったり、見送ったりということを決めているのかを見て行く事としましょう。私は配信用に1日1回のスイングトレードをし、毎週土曜日にその週の取引をどのようなことを根拠として行ってきたかの見解をメールで配信しています。そのメールを元に、私の2013年1月の取引を見ていきましょう。

この中から、「判断材料はこのようにして使っていくのか」ということを分かってもらえればと思います。

※ここからは、実際の取引を解説した映像をお渡ししていますので、その映像と照らし合わせてご覧いただくと、より理解が深まります。

1月4日

2012年の最後の取引日にあたる12月28日には終値は2,224円でしたが、年が明けてはじめての取引日には終値は2,390円となり、大幅な上昇を見せました。これは、年末年始に日本市場がしまっていた間も海外の市場では取引が行われていたことによります。

この時、ちょうどアメリカでは「それが通らなければ経済に悪影響を及ぼす」と騒がれていた法案が通るといふ出来事が起こっていました。法案が通る事によって市場環境は改善し、為替は円安に傾き、ドル円は88円を越えました。これが、相場が1営業日でグンと伸びた理由でした。

この日、私は両建て注文を出しています。これは上昇相場なので買い注文を出すのはもちろんのこと、一営業日で7%も株価が上昇したため、これは上がりすぎの嫌いもあり、値下がりする可能性も考え、様子見の意味で両建て注文となったのです。

2,390円 買い

2,390円 売り

1月7日

終値は約 60 円下げて 2,331 円となりました。為替は 88 円を割り込んだものの、まだ 87 円後半を維持していたため、大局的には上がると見て買いポジションを取っています。終値が下がった事をむしろ買いのチャンスとさえ見ていました。

2,390 円 買い

2,390 円 売り

2,331 円 買い

1月8日

終値は 2,293 円でした。更に 40 円ほど下がり、2,300 円を割り込みました。この値下がり の要因は、為替が 87 円を割り込んだ事によって輸出関連株が全体的に下がってきた事にあるでしょう。

少し詳しく見てみると、出来高は増えて株価が下がっている事が分かり、これによって下降トレンドが形成されていく可能性が出て行きました。そのため、売りのポジションを取る一方で、1月4日の両建て注文をどちらも決済する事によって足を軽くしました。本来ならば売りポジションだけを決済して値戻りを期待すればいいのですが、根戻りをしてこない危険性もあると判断して相殺したのです。

2,331 円 買い

2,293 円 売り

1月9日

この日、終値は 2,319 円でした。2,331 円の買いポジションに対して、両建ての意味合い売りポジションを取っています。

2331 円 買い

2319 円 売り

2293 円 売り

1月10日

この日、ドル以外の外貨でも、全面的に円安方向に動いています。なぜならば日本の貿易収支が 2,000 億円の赤字が出たとの発表があり、日本の経済を危ぶんで円が売られることによって円安に傾いたからです。貿易収支が大きな赤字を出したからといえ、円安になったという事は輸出企業にとっては大変有利な環境になったという事であり、実際に輸出企業の業績面では好影響が出ています。終値は 2,363 円でした。1月7日の 2,331 円の買いポジションを決済し、32 円の利益を確定します。

2,319 円 売り

2,293 円 売り (※ここまでの利益 32 円)

1月11日

終値は 2,398 円でした。前日に引き続き値上がりを見せたため、買い注文を入れることによってポジション調整を図ります。

2,398 円 買い

2,319 円 売り

2,293 円 売り (※ここまでの利益 32 円)

1月15日

この月の 21,22 日には日銀金融政策決定会合が行われるのですが、この会合ではいい材料が出ると読んでいました。したがって、その日までにどのタイミングで買いを入れるかがポイントとなってきます。1月14日は、日本では成人の日であるため、市場は休場となっていたが、世界では休日ではなく市場は開かれており、軒並み順調でした。そのため為替は円安を継続しており、日経平均も上がっていました。

しかし石破氏と甘利氏の要人発言によって円高傾向が進む事となり、ブリヂストンの株価は反落しました。終値は 2,380 円であり、見送っています。

1月16日

終値は2,328円で見送りです。前日の要人発言を受けて円高が進行したため、日本株は全面安となりました。セクターに見たときも、ブリヂストンの属するゴム産業は2%以上も値下がりがしており、様子がおかしいと感じたため見送りました。

1月17日

終値は2,344円でした。この日は場中では2,300円を割り込んだこともあり、値戻りする勢いが強いと判断して買いポジションを取っています。

2,398円 買い

2,344円 買い

2,319円 売り

2,293円 売り (※ここまでの利益 32円)

1月18日

この時の終値は 2,398 円でした。見送っています。

見送りには相場が読めないため見送りする場合、値下がりすると思って見送りする場合、値上がりすると思って見送りする場合の 3 パターンがあります。この場合は値上がりすると思ったが見送った場合です。

日銀金融政策決定会合の前に買い増しを考えてもいましたが、この日にアメリカ経済が良くなりそうな兆しが見えたため円安に傾き、日経平均は 300 円以上も上昇しました。ブリヂストンの株価自体も 2%を越える上昇を見せました。本当は買いポジションを入れるつもりだったのですが、思った以上にあげたため、反落の危険性を考えて買うのを見送りました。とはいえ上がるという期待も持っていたため、買いのポジションを持っていたものも決済せずに見送っています。

1月21日

終値は 2,368 円でした。1月17日の 2,344 円の買いポジションを決済しています。

2,398 円 買い

2,319 円 売り

2,293 円 売り (※ここまでの利益 56 円)

1月22日

この日、21日から続けて行われた日銀金融政策決定会合では、予想通り2%のインフレも公卿が明記されました。このときは、インフレにたいして「具体的な数値は明示せずに上昇を目指すか」「1%の上昇を目標とするか」「2%の上昇を妄評とするか」によって、ここに政府の意気込みが現れるとして注目されていました。そして予想通り2%と明記されました。

しかし、後場寄り付きでは反発した値動きを見せています。これは、会合において無期限での金融緩和が行われるという発表があったことによります。この決定は2014年からという発表でもあったため、即効性がないと判断されたため、値下がりに繋がりました。

終値は2,351円となり前日よりマイナスで引けました。しかし内容自体は悪くなかったため、今後の相場の様子を見るためにも見送りをしました。

1月23日

終値は 2,282 円であり、買いポジションを取っています。それまでは日銀金融栄作決定会合という期待感とともに相場は上昇傾向にあったものの、材料が出尽くしました。この先プラス材料は見当たりません。そのため為替は円高に動きました。日経平均は 10,500 円を割り込み、ブリヂストン株も 2,300 円を割り込みました。しかし、今もっているポジションに対して、両建て的な意味合いを持たせるために、またこの株価であれば根は再びあがっていくということを期待して、買いポジションを取ったのです。

2,398 円 買い

2,319 円 売り

2,293 円 売り

2,282 円 買い（※ここまでの利益 56 円）

1月24日

終値は 2,308 円であり、この日に 1 月 9 日と 2,319 円の売りポジションと
い、1 月 23 日の 2,282 円の買いポジションを決済することによって、この 2
ポジションから合計 37 円の利益を出しています。

株価は反発して 2,300 円を回復したものの、アメリカ市場の動き次第では再
び値下がりする可能性は十分にあり、逆に値下がりしなければ上昇していくと
見られました。そのため柔軟な動きが取れるように、売りと買いの両方のポジ
ションを決済することによって足を軽くしました。

2,398 円 買い

2,293 円 売り (※ここまでの利益 93 円)

1月25日

終値は 2,383 円でした。前日の 24 日に貿易収支がまた発表され、過去最大
の 7 兆円の赤字が発表されました。その結果円安方向に大きく振れ、この日は
輸出関連企業が牽引する形で日経平均が大幅に上昇しました。ブリヂストンも
前日より大きく上昇しました。この日の終値を挟んで値上がりと値下がりのだ
ちらへも動く可能性があるかと踏んで、両建てを行います。

2398 円 買い

2383 円 買い

2383 円 売り

2293 円 売り (※ここまでの利益 93 円)

CHAPTER3 これが常勝・波乗りトレードの手法だ!

最後の1週間に関しては、全て見送りを行っています。値動きの幅が2,373～2,393円と非常に小さく、売買材料としていいものも見当たらなかったために見送っています。

1月を見ていくと、私は売買判断に基づいて買いや売りを入れているものの、その直近で見ると全てが的中しているわけではなく、むしろ外れている事は多いです。しかし、利益は着実に出ています。

このことから、売買判断はあくまで売買をするための根拠であり、それが外れて含み損を抱えてもなんら問題はありません。自分の中で、サイコロを振ってポジションを取っていくよりは自信があればそれでいいと思います。

波乗りトレードは、あくまで予測が外れることを前提としており、予測が外れて含み損を抱えたときに、いかにして利益を出していくかということに重きを置いています。予測してポジションを取るの悪くない事ですが、それが外れたからといってなんら心配することはないのです。

売買の判断材料を用いてのバーチャルトレードでの練習は、3ヶ月を目安に行うようにしましょう。3ヶ月が経った頃には、勘で取引をするよりは利益を出しやすくなっていることでしょう。

■リアルトレード

バーチャルトレードまで行ったならば、おそらくもう波乗りトレードを体得していることでしょう。実際に自己資金を用いて取引をしても大丈夫と思います。ここからは実践あるのみです。

ただし、リアルトレードを行う際に、ひとつだけ注意点を押さえておいてください。

○資金は余剰資金で行おう

投資を行う際の大原則は、余剰資金で行うということです。余剰資金というのは、簡単に言えばそのお金が丸々なくなってしまうても生活に支障をきたさない、余っているお金の事です。

では、余剰資金ではないお金で投資をしたらどうなるのでしょうか。

まず、単純な話ですが、負けたときには生活に困窮する事になります。そして、そうなる確率が高いのです。なぜならば、絶対に負けられないお金で取引をすることによって精神的余裕が無くなり、正しい判断が出来ず、取引に悪影響が出るからです。

使ってはいけないお金の例は、借りたお金、目的が決まっているお金、近い将来使う可能性があるお金です。それらのお金では負けられない気持ちが強く現れ、冷静さを欠き、負ける可能性が高くなります。株取引は精神的にも資金的にも余裕のある状態で始めるべきです。

波乗りトレードでは含み損に寛大でなければできない手法です。しかし、そのお金が本来なくなつてはならないものであればあるほど、含み損に過敏になりすぎるものです。人間の心理は含み損状態になると、感情的にはリスク許容

度が上がってくる傾向にあるからです。含み損を取り返そうと必死になる人にもその傾向があります。

損失は取り返せたならばそれに越した事はありませんが、取り返そう取り返そうと躍起にならないことです。それで冷静さを欠き、ポジション調整がうまくいかなくなってしまえば本末転倒です。

○実際に儲かるのか

ここまで、波乗りトレードの手法を学んできました。しかし、本書をまだ手に取ったばかりで、過去トレードやバーチャルトレードに取り組んでいない人にとって、手法はある程度理解できたかもしれませんが、より肝心なところは「この手法を用いて実際に利益が出るのか」ということです。株の世界で本当にこのような簡単な方法で利益を出して行く事ができるのかどうか、検証してみましょう。

検証では、私が2013年1月～3月までに行った実際のトレードの実績を見るのが一番いいでしょう。このときに用いるデータはサービスでも配信されたものであり、間違いなく私が実際に行ったトレードの結果です。

ちなみに、ここで私が取っている数々のポジションには、バーチャルトレードで学んだ売買の判断材料を用いていますが、ここでは純粋に「波乗りトレードで儲けが出るか」という事だけに集中したいと思います。実際に利益を出していく様子を見ていきましょう。

※ここでも、実際の取引を解説した映像をお渡ししていますので、その映像と照らし合わせてご覧いただくと、より理解が深まります。

○2013年1月

年末年始は市場が閉まっているので、2012年の最後取引が行われた日は12月28日です。

1月4日

2013年を迎え市場が開かれる最初の日が1月4日でした。この日の終値は2,390円でした。私が配信用に行っているのは終値で1日1回の取引をするというスタイルですので、毎回の取引は終値で判断をされていますが、判断のタイミングは終値に限定せず、各自のタイミングで行ってもよいと思います。

この日、私は両建て注文をしています。なぜ買いと売りのどちらかではなく両方でポジションを取ったのかというと、まず2012年の後半から長い間上昇相場が続いており、まだ上がることが予測できたため買い注文をいれました。しかし12月28日の終値が2,224円だったのに対し、1月4日の終値は急(166円の値上がり)に上がっているため、値下がりに転じる可能性もあるとして売りの注文を入れたのです。これが両建てとなった理由です。現在のポジションは以下の通りです。

2,390円 買い

2,390円 売り

(利益0円)

1月7日

終値は 2,331 円でした。ここで買い注文を入れました。上昇相場であり、今後も上がると予測していたのに対し、値下がりを見せたわけです。しかし相場の流れとしてはまだ上昇相場だと判断し、買い注文を入れたのです。また、始まって2日目なので買いを入れて様子を見てみようという気持ちもありました。

このとき 2,390 円の売りポジションを決済すると利益が出るのですが、現在の 2,331 円から更に下がったときの事を考えて、決済せずに保有しておきます。現在のポジションは以下の通りです。

2,390 円 買い

2,390 円 売り

2,331 円 買い

(利益 0 円)

1月8日

終値は 2,293 円でした。売りポジションを取ります。ここで 1 月 4 日に取った 2,390 円の両建てのポジションをどちらも決済しています。両建てをどちらも決済したときには±0 円となりますが、なぜあえて両方とも決済したのでしょうか。

それは、前日の株価からリバウンドする事を期待して買い注文を出したものの、下がってしまったため、そこから更に下がることを考えたのです。確かに 2,390 円の売りポジションを決済すれば 97 円の利益が出ますが、そこからさらに下がっていったときに 2,390 円の買いポジションで利益を出せる株価まで戻らなかったときに大きな含み損となるため、ここではあえてどちらも決済したのです。また、2 ポジション分を決済する事によってフットワークを軽く取引をしていけるという利点もあります。現時点では取引手数料分がマイナスとなっています。現在のポジションは以下の通りです。

2,331 円 買い

2,293 円 売り

(利益 0 円)

1月9日

終値は 2,319 円でした。今後の値下がり期待して売り注文を出します。現在のポジションは以下の通りです。

2,331 円 買い

2,319 円 売り

2,293 円 売り

(利益 0 円)

ここで最も近い買いポジション (2,331 円) と売りポジション (2,319 円) の差額を見ると 12 円であり、2,293 円よりも 12 円下がった 2,281 円以下まで値下がりすれば利益が出ることとなります。これも 2319 円のタイミングでポジションを取った事の理由となっています。

1月10日

終値は 2,363 円でした。ここで 1 月 7 日に取った 2,331 円の買いポジションを決済して 32 円の利益を確定しています。一時期は含み損となっていたポジションも、こうして利益を生み出していきます。現在のポジションは以下の通りです。

2,319 円 売り

2,293 円 売り

(利益 32 円)

1月11日

終値は 2,398 円でした。買い注文を入れています。このまま値上がりをした
ときのことを考え、買いポジションを取る事で調整をしています。

2,398 円 買い

2,319 円 売り

2,293 円 売り

(利益 32 円)

1月15日

終値は 2,380 円でした。値上がりか値下がりかの判断がつかず、見送りをして
います。

1月16日

終値は 2,328 円です。ここでも見送りです。

1月17日

終値は 2,344 円であり、ここで買いポジションを取っています。リバウンドして行く事も考えられますが、リバウンドした場合には 2 つの売りポジションが足手まといになってしまうため、それに備えての買いポジションです。

2,398 円 買い

2,344 円 買い

2,319 円 売り

2,293 円 売り

(利益 32 円)

1月18日

終値は 2,398 円です。見送ります。

1月21日

終値は 2,368 円になりました。ここで 2,344 円の買いポジションを決済して、24 円の利益を確定しています。新たにポジションは取りません。

2,398 円 買い

2,319 円 売り

2,293 円 売り

(利益 56 円)

1月22日

終値は 2,351 円であり、ここでも見送っています。

1月23日

終値は 2,282 円であり、ここで買い注文を入れます。このタイミングで売り注文を決済すれば利益が出ますが、まだ下がる事も予測されるので決済しません。また、2,282 円であれば値が動いた際にも容易に戻るだろうと思い、2,282 円の買いポジションを取ったのです。

2,398 円 買い

2,319 円 売り

2,293 円 売り

2,282 円 買い

(利益 56 円)

1月24日

終値は 2,308 円でした。ここで 2319 円の売りポジションを決済して 11 円の利益、2,282 円の買いポジションを決済して 26 円の利益を確定しています。

2,398 円 買い

2,293 円 売り

(利益 93 円)

1月25日

終値は 2,383 円であり、両建ての注文を出しています。

2,398 円	買い	
2,383 円	買い	
2,383 円	売り	
2,293 円	売り	(利益 93 円)

1月28日

終値は 2,373 円であり、どのポジションを決済しても利益にならないため見送ります。

1月29日

終値は 2,380 円。値動きがほとんどなく、先が読めないため見送りです。

1月30日

終値は 2,391 円。ここでも値動きが小さいため見送ります。

1月31日

終値は 2,393 円であり、ほとんど値動きがなかったため見送りです。

1月の利益を合計すると93円の利益が出ています。注目したいところは、私が出した多くの予測がデイリーベースでは外れ続けていることです。外れたときには当然含み損を持っているものの、利益の調整によって着実に利益を積み重ねている事が分かります。したがって、1月を終えた時点でも含み損は105円残った状態ですが、これもいずれ利益に転じて行く事ができるので心配することはありません。

ちなみに、取引は全て100株単位で行われています。このため、1月のトータル93円の利益というのは、1株あたりの利益が93円であることを示し、実際には9,300円の利益となっています。

○2013年2月

2月1日

終値は2,405円でした。このとき1月25日の2,383円の買いポジションを決済して22円の利益を確定しています。2398円の買いポジションも決済する事ができますが、利益が7円しか出ないのでとりあえず見送る事とします。

2,398円 買い

2,383円 売り

2,293円 売り

(利益 22円)

2月4日

終値は2,414円であり、買い注文を出しています。ここで買い注文を出す事によって、買いポジションと売りポジションの個数を合わせてバランスを取っています。

2,414円 買い

2,398円 買い

2,383円 売り

2,293円 売り

(利益 22円)

2月5日

終値は 2,366 円で、ここで買い注文を出しています。ここで 2,383 円の売りポジションを決済しても利益が出るのですが、もし値下がりが続けた場合のことを考えると、2,383 円の売りポジション持っておいたほうがつぶしが効くので、売らずに保有しておきます。値上がりした場合には 2,366 円の買いポジションをもっておくことで利益を出す事が可能です。

2,414 円 買い

2,398 円 買い

2,383 円 売り

2,366 円 買い

2,293 円 売り

(利益 22 円)

2月6日

終値は 2,480 円でした。ここで 2月4日の 2,414 円の買いポジションを決済して 66 円の利益を確定しています。

2,398 円 買い

2,383 円 売り

2,366 円 買い

2,293 円 売り

(利益 88 円)

2月7日

終値は 2,473 円でした。ここでようやく 1 月 11 日の 2,398 円の買いポジションを決済して 75 円の利益確定をしました。最近の株価を見ると売りポジションの含み損は大きくなっている事が分かりますが、この辺りまで株価を上げてからというもの、上がり切った感じがあります。よって、これから下げ相場に転じる可能性があるかと判断しています。

2,383 円 売り

2,366 円 買い

2,293 円 売り

(利益 163 円)

2月8日

終値は 2,423 円であり、買い注文を入れています。まだ下がる可能性があるので売り注文を入れたいところではありますが、バランスを取るために買い注文を入れています。

2,423 円 買い

2,383 円 売り

2,366 円 買い

2,293 円 売り

(利益 163 円)

2月12日

終値は 2,501 円でした。ここで 1 月 25 日の 2,383 円の売りポジションと 2 月 5 日の 2,366 円の買いポジションを決済しました。売りポジションからは -118 円の損失が出ましたが、買いポジションからは 135 円の利益が出ているので、決済全体で見ると 17 円の利益が出ていることが分かります。

2,423 円 買い

2,293 円 売り

(利益 180 円)

2月13日

終値は 2,426 円です。ここで買い注文を出しています。ブリヂストンの決算が 2 月 18 日であり、そこで大きな値上がりをする予測した上での買い注文となっています。

2,426 円 買い

2,423 円 買い

2,293 円 売り

(利益 180 円)

2月14日

終値は 2,500 円です。前日に取った 2 月 13 日の 2,426 円の買いポジションを決済して 74 円の利益を確定しています。

2,423 円 買い

2,293 円 売り

(利益 254 円)

2月15日

終値は 2,485 円でした。ここでなんと 2 ポジション分の買い注文を出しています。近く発表される決算では下げ要素がなかったため、自信を持ったの注文です。通常このような注文はあまり出さないのですが、大きな自信があったときにはこのような注文をすることもあります。

2,485 円 買い

2,485 円 買い

2,423 円 買い

2,293 円 売り

(利益 254 円)

2月18日

終値は 2,555 円でした。本日の決算発表では予測の通りいい内容であったため、値上がりする事を考えて買い注文を出しています。このとき、どんなに自信があったとしても、万が一に備えて全てのポジションを同一方向に持たないため、1月8日に持った 2,293 円の売りポジションをもち続けていることに注目です。

2,555 円 買い
 2,485 円 買い
 2,485 円 買い
 2,423 円 買い
 2,293 円 売り
 (利益 254 円)

2月19日

この日、大幅な上昇をして終値は 2,820 円まで上がりました。ここでようやく、1月8日に持った 2,293 円の売りポジションを決済して 527 円の損失、2月15日に買った 2,485 円の買いポジションを 2 ポジションとも決済して 670 円の利益確定、2月18日の 2,555 円の買いポジションも決済して 265 円の利益確定をし、トータルで 408 円の利益を出しています。ここで全ての含み損を利益、含み益だけを持った状態にすることに成功しました。

2,423 円 買い
 (利益 662 円)

2月20日

終値は 2,809 円でした。この日、2月8日に注文した 2,423 円の買いポジションも決済し、386 円の利益を確定しました。これでポジションは全て決済してしまい、0 ポジションの状態となりました。

2月21日

この日の終値は 2,807 円です。値動きがほとんどなかったため、見送りしました。

2月22日

終値は 2,805 円です。この日も動きがほとんどなかったため、見送りしています。値動きがあれば両建て注文を出す事も考えられますが、根動きがほとんどないため、動かずに相場を眺めるという姿勢です。

2月25日

終値は 2,847 円です。ここで、値動きが出てきたので両建ての注文を行います。

2,847 円 買い

2,847 円 売り

(利益 1048 円)

2月26日

終値は 2,770 円。この日、2・25 日の売りポジションを決済して 77 円の利益確定をしています。

2,847 円 買い (利益 1125 円)

2月27日

終値は 2,769 円で、買い注文を出しています。ここまで大きな値下がりがあったことから、値上がりを予測しての買い注文となっています。

2,847 円 買い

2,769 円 買い (利益 1125 円)

2月28日

終値は 2,844 円でした。この日、2月27日の買いポジションを決済して 75 円の利益を確定しています。

2,847 円 買い (利益 1200 円)

2月の合計を見ると、利益は 1,200 円にもなり、含み損は 3 円となりました。一時期の含み損を抱えても、それを利益にして行く事ができるという意味が分かってきたのではないのでしょうか。

○2013年3月

3月1日

株価はほとんど推移せず、終値は2,843円でした。ここで2,847円の買いポジションを持っているため、両建て状態をつくってどちらの値動きにも対応できるようにします。つまり、売りの注文を出しました。

2,847円 買い

2,843円 売り

(利益0円)

3月4日

終値は少し上昇し、2,933円でした。売り注文を出します。ここで2月25日の2,847円の買いポジションを決済し、86円の利益を確定します。

2,933円 売り

2,843円 売り

(利益86円)

3月5日

終値はそれほど動かず 2,915 円。ここで前日の 2,933 円の売りポジションを決済して 18 円の利益を確定しています。たった 18 円の利益ならば確定せずに放置しておけばいいと考える人もいるでしょうが、ここでは値上がりすると予測し、事前に少ない利益でも取っておこうとする考えでの決済です。

2,843 円 売り
(利益 104 円)

3月6日

終値は予測どおり値上がりして 2,965 円です。この日は見送りました。買い注文を入れるほどの危機感を感じておらず、また下がりそうだとも感じており、判断がつかねたので見送りです。

2,843 円 売り
(利益 104 円)

3月7日

終値は 3,090 円でした。株価が上がってきたので、すでに保有する 2,843 円まで値が戻らないことを懸念して、調整を始めています。3,090 円で両建ての注文を出しました。

3,090 円 買い

3,090 円 売り

2,843 円 売り

(利益 104 円)

3月8日

株価は上昇を続けて終値は 3,270 円でした。予測どおり株価は値上がりをはじめたので買いポジションを取ります。更に値上がりしたときへの備えです。

3,270 円 買い

3,090 円 買い

3,090 円 売り

2,843 円 売り

(利益 104 円)

3月11日

株価はほとんど変わらず終値は 3,250 円でした。前の週の金曜日にあたる 3 月 8 日に発表された雇用統計の内容がよく、円安が進んでいました。輸出企業に好影響、値上がりが起こると判断し、更に買いポジションを取ります。これで 5 ポジション全てが埋まりました。

3,270 円 買い

3,250 円 買い

3,090 円 買い

3,090 円 売り

2,843 円 売り

(利益 104 円)

3月12日

ほとんど値動きはなく、終値は 3,240 円でした。見送ります。

3月13日

予測とは反対の値動きとなり、終値は 3,185 円でした。ここで 3 月 7 日の両建てを、売りと買いの両方を決済しています。両建てをどちらも決済する事で ±0 円で、2 枠分のポジションが空くため、足を軽くするための決済です。

3,270 円 買い

3,250 円 買い

2,843 円 売り

(利益 104 円)

3月14日

終値は 3,235 円でした。予測しかねて見送っています。

3月15日

終値は 3,335 円まで上がったため、3 月 8 日の 3,270 円の買いポジションを決済し、65 円の利益を確定しています。

3,250 円 買い

2,843 円 売り

(利益 169 円)

3月18日

終値は 3,250 円でした。値動きが見られないため見送っています。

3月19日

終値 3,260 円。この日もほとんど値動きがなく、すでに持っている 3,250 円の買いポジションと値が近いにもかかわらず、株価の上昇を予測して買いポジションを取っています。2,843 円の売りポジションの含み損が大きくなっているので、それを相殺することを期待して買いポジションを増やしたのです（ここでポジションを取るときの注意点 3 で学んだ事を確認しておきましょう。同一方向に取る各ポジション同士では、このように近い値で複数のポジションを取ることは、通常ではほとんどありません。値に幅を持たせて複数ポジションを取っていかなければ 5 分割法が生きてこないからです。このこともぜひ覚えておきましょう）。

3,260 円 買い

3,250 円 買い

2,843 円 売り

(利益 169 円)

3月21日

終値は 3,255 円でした。ここでも更に買いポジションを取っています。値上がりを予測し、2,843 円の売り注文を潰す体勢を整えています。

3,260 円 買い

3,255 円 買い

3,250 円 買い

2,843 円 売り

(利益 169 円)

3月22日

終値は 3,150 円になり、予測とは裏腹に含み損が拡大してしまいました。しかし事ここに至っても利益に転じていけるのが波乗りトレードです。波乗りトレードになれた人は、含み損が拡大しても焦る事はありません。しかしどうしようもない状態なので傍観しておきます。

3月25日

終値は変わらず 3,150 円です。見送ります。

3月26日

終値は3,080円。売りポジションを入れることも考えられますが、5ポジションを埋めることを避けるために見送ります。

3月27日

終値は3,155円です。引き続き見送ります。

3月28日

終値はほとんど動かず3,150円でした。値動きがないため手を出しかねます。見送りです。

3月29日

終値は3,170円でした。この日も見送っています。3月の後半は退屈でしたが、このような場合もあります。基本的にのんびりとしたトレードであると思ってください。

さて、3月を総計すると169円の利益となり、持っている全てのポジションから含み損が生じ、含み損の合計は582円となりました。波乗りトレードに慣れ親しんだ人は、含み損はあくまで「決済しないかぎり損失にはならない」ということを知っており、いずれ含み益になるということも知っているため、なんら恐れないのですが、従来の手法の感覚が未だ抜け切れない人や、まだ波乗りトレードの「含み損観」に慣れていない人は過剰に反応しがちです。

しかしこの含み損は6ヶ月の間に何とかすればいいので焦る必要はありません。それに1月からの利益の総計は1,462円であり、それに対して582円の含み損です。はるかに利益のほうが大きいだけでなく、その含み損はいずれ利益になるであろう事が期待されるのです。

試みに、途中の取引は割愛し、4月の総計がどうなったかを見てみましょう。4月は580円の利益を出し、含み損は1,072円となりました。1月からの総計では利益は2,042円であり、含み損は1,072円です。そしてこの含み損は前月の582円がそのまま継続されたものではなく、新たなポジションから生まれた含み損です。つまり、前月までに抱えた含み損は着実に利益に転じており、含み損を抱えながらも利益が伸びているという事が分かります。

ここまで見てきて、ポイントをまとめると

- ・ポジションを取るきっかけとして一応予測してポジションを取るものの、予測はいくら外れてもかまわない。後のポジションバランスでいくらでも調整が効く
- ・含み損はあくまで「今決済したら損失として計上される」というだけであり、決済しなければ損失となる事はない
- ・含み損は抱えて当然と考える。後のポジション調整でいくらでも利益に転じることができる

という事です。

また、実際の取引を見てみると分かるとおり、ポジションを持つだけの日、見送る日などもあり、頻繁に決済する事はないため、デイリーベースで見るとそれほど儲かっているとは感じません。しかし1ヶ月や数ヶ月、1年とまとまった利益を見てみると、多くの人が「こんなに儲かっていたのか」と驚きます。実際に私は、配信用に行った1日1回、1回3分のスイングトレードで年利80%という結果を出しており、波乗りスクールの受講生の中には、株初心者にもかかわらず元手を1年で倍に増やしたような受講生はザラにいるのです。

実際のトレードを見てみると、これまで波乗りトレードの特徴として強調してきたことが分かると思います。

波乗りトレードで十全の効果をを得るためには、ルールをきちんと守って行く事が必要であり、そのためにはこの手法に疑いを抱かず、全てをゆだねる気持ちで取り組む事が必要です。実際の取引を見る事で波乗りトレードへの信頼に繋がるのであれば幸いです。

CHAPTER4 勝ち続けるメンタルを持つ

投資を行うにおいて、どのような手法でもメンタルの大切さはよく説かれます。波乗りトレードに限らず、投資全般で大切な事です。手法の中で決められたルールをしっかりと守っていくためには強いメンタルが必要であり、特に波乗りトレードにおいては大きな含み損を抱えたときにも動じないメンタルを作る事が大切です。

メンタルが弱いと、値下がりして含み損が大きくなったときにびっくりして狼狽売り（ろうばいり）をしてしまい、その直後に相場が反転して悔しい思いをしたり、その逆が起こってしまいます。

取引には調子のいいときと悪いときとがあるものです。調子のいいときには勘が冴えて、注文を入れたポジションがことごとく当たって利益がどんどん出てきます。逆に調子の悪いときは保有するポジションの全てが予測からはずれ、バランス調整に忙しくなるものです。

しかし、それが投資というものです。調子のいいときもあれば悪いときもあるものです。波乗りトレードでは、調子の悪いときでも、悪くとも±0円、もしくは利益がそれほど伸びないという状態となります。損失は生み出されないのですから、なんら焦る必要はありません。

だからこそ、調子のいいときに調子に乗ってしまうことなく、悪いときにも憂鬱にならず健全なトレードをしていく必要があります。

■勝ち続ける事の怖さ

怖いのは、あまりにも上手い具合に勝ち続ける事によって、調子に乗ってしまうことです。例えば5分割での取引で上手く行き過ぎて、分割数を少なくすることでより大きな利益を出そうと思い、5分割を3分割にして取引を試みるなどです。「大きく勝つ事より、負けずに利益を積み重ねていく」という、波乗りトレードにおける資金5分割法の本来の意味を忘れてしまうのです。

その他にも、「買い・買い・買い・買い・買い」あるいは「売り・売り・売り・売り・売り」というように、すべてのポジションを同一方向に埋めてしまうことはいけないということを忘れ、より大きな利益を求めてこれをやってしまうのです。これでは資金を分割せずにポジションを取っている事となんら変わらなくなってしまい、何らかの事を原因として、取り返しがつかないほどの大きな負けを被ることとなってしまいます。

投資の世界において、勝ち続けるという状態は本来異常な状態です。しかし、人間は異常な状態が続いたとき、感覚が麻痺し、それが異常な状態であるという感覚を失ってしまいます。異常性に直面したとき、おかれた環境に順応するように働くように脳はできているのです。そのため、よほどしっかりとしたメンタルを持っていないかぎり、人間は勝ち続けたとき、自分の相場を予測する能力を過信するようになり、勝つ事が当たり前であるという感覚に陥ってしま

うのです。

例えば 2012 年に、政権が民主党から自民党に変わったときがそうです。アベノミクスなどによって相場は異常ともいえる上昇振りを見せました。本来ならばそのような上昇を見たときにはそこに異常性を感じ警戒をするものなのですが、上昇が続くうちに上昇する事が当たり前となってしまう、多くの投資家がここぞとばかりに投資をはじめ、株ブームが巻き起こったのでした。そして 2013 年の半ばに相場が下落に転じたとき、天井付近で投資をした多くの投資家が泣きを見る事となりました。

■初心を忘れる事の怖さ

私が波乗りトレードを教えた人たちの多くが、最初は「今まで負け続けてきたから、とりあえずその負けた分を取り返せばいい」、「少し勝つ事によって毎月の生活のプラスになっていけばいい」というくらいに考えている人も多いものです。しかし、波乗りトレードの実践によって利益を出していくうちに、次第に貪欲になっていくのです。勝てなかったかつての自分はどこへやら、勝てる事が当たり前となってしまう、そこで終っておけばいいものを、利益額を追求するようになってしまうのです。そして全ポジションで買いや売りのポジションを持つ「全力買い・全力売り」をしてしまう人もいます。

このようにルールを破るようになってしまうと、利益額が減ってしまったり、最悪の場合には損失を出してしまう事となります。

特に、スイングトレードでの波乗りトレードは暇なものです。1日1回、3分間のトレードで済んでしまう上に、毎日ポジションを取るわけでもなく、見送る事もしばしばです。余りに暇な手法なものですから、その暇な時間に相場に張り付いてしまったり、ルール外の余計な事を試してしまう人もいます。

■メンタルの重要性

この CHAPTER の冒頭でも述べたとおり、波乗りトレードで勝ち続けるためには、メンタルが大切です。噛み砕いていうならば、感情の揺れ幅を少なくすることです。投資において、感情の揺れはマイナス要因となります。

慌てて買ったり売ったりするのではなく、あらゆる状況で感情を揺れ動かす事なく、ルールに則って調整を重ね、負けないようにして行く事が大切なのです。ルールを度外視して一攫千金を狙っていくのは、もはや投資ではなくギャンブルに過ぎません。

リスクヘッジを忘れず、負けないようにしていくためのメンタルを維持して行く事ができなければ、せっかくの勝てる手法が台無しというものです。

それでは、勝っている順調な時にはどのようなメンタルを持つべきか、そして負けている不調の時にはどのようなメンタルを持つべきかを解説しましょう。

○勝っているときのメンタル

勝っているときというのは、どうしても調子に乗ってしまいがちなものです。自分の予測がはずれ、損失を出しているときの姿を想像する事ができなくなります。そのため、これからも勝ち続けて行く事ができると確信し、リスクを考える事ができなくなります。そして余力を残すことなく、全力買いや全力売りに走ってしまいます。

そのようなときに限って、何かの要因によって、予測とは反対に大きく値が動いたときに手も足も出せなくなってしまい、取り返しのつかないダメージを負ってしまうのです。

勝っているときこそ心配性になるくらいがちょうどいいのです。昔の実力ある武将も「勝って兜の緒を締めろ」と言っています。

○負けているときのメンタル

波乗りトレードでは、そもそも含み損は抱えて当たり前と考えます。とはいえ、この感覚に慣れきっていない人にとっては、含み損が膨らんだときには精神的に辛いものです。しかし、含み損を出しても気にしないことが大切です。

確かに含み損を抱えているかもしれませんが、その含み損というのは「今の株価において決済したときには損失として計上されるもの」であり、決済しなければ実際に損失とはなりません。あくまで損失となる可能性があるというだけのことです。数ヶ月後には大きな確率で含み益に転じる可能性を持っており、あるいは他のポジションとの調整によって±0 やトータルでプラスになるものなのです。

そして、相場というものは、自分の予測とは外れて上昇や下降をしたかもしれませんが、それはそのまま永遠に上昇や下降を続ける事はありません。い

れ値は戻ってきます。そのような波がある相場の中で出た一時の含み損にビクビクとする必要は全くありません。

負けているときに悪いのは、含み損が出たとき、それ以上に含み損が大きくなる事を恐れて狼狽売りをしてしまい、損失を出してしまう事です。波乗りトレードにおいては ロスカットを行うことはほとんどありません。ロスカットは先々を予測したとき、6ヶ月以内に値戻りが期待できないときに限って行い、しかもできるだけ他のポジションとのトータルではプラスとなるように行うものです。

含み損には2種類あることを知りましょう。それは「良い含み損」と「悪い含み損」です。「良い含み損」とはこれから利益に転じて行く事ができる含み損であり、「悪い含み損」とは6ヶ月以内に値戻りが期待できない含み損のことです。ロスカットをするのは「悪い含み損」のときに限られます。

狼狽売りととは、値戻りが期待できるにも関わらず、含み損が増えて行く事に我慢ができずに売ってしまうことですが、狼狽売りをしてしまう人にありがちなもうひとつのミスがあります。それは、含み益を出しているときに相場に張り付いてしまい「もう少し上がりそう、まだ上がりそう」として相場を注視し、少し値下がりをして「いや、まだ上がるはず」と思っていたら、更に値が下がってしまい、そうするうちに含み益がどんどん減っていき、売るタイミングを逃してしまうというものです。これでは勝てなくても当然というものです。1円、2円で利益を増やしたいと思う心が、結局は10円、20円の損失となってしまうのです。

相場で含み損を抱えている人、予測をはずし続けている人は、「負けているときにこそ焦りは禁物」とくれぐれも覚えておきましょう。

■初心者と経験者での注意点の違い

○初心者にありがちなメンタル

株の初心者が最初に当たる壁は「含み損」です。投資の世界では決済しないにもかかわらず、含み益や含み損といった形でお金が増減しているように見えます。そして含み損によってマイナスの形で表示されると不安になるのです。そこで、初心者の人こそ、特に「含み損は利益になる可能性を十分に持ったものであり、実際に損をしているわけではない」ということを徹底的に知ってもらい、その感覚になれて欲しいと思います。含み損に不安になりすぎないで下さい。

また、初心者でルールを身にしみて体得していない人にありがちなのが、銘柄を複数にしてしまうという間違いも上げられます。この手法は1日1回で暇であり、しかも利益が着実に上がるため、ルールを守って複数の銘柄を持てば利益を大きく増やせるのではないかと思うのです。しかしこれは理論上では可能そうに見えるものの、実際には難しい事です。本当に勝てる銘柄を選ぶことができるかどうか分かりませんし、そもそも「いかに安全に安定的に利益を出していくか」という波乗りトレードの理念から外れてしまいます。私が5年間無敗、勝率83.3%であるのはルールを忠実に守ってきたからであり、独自の見解での勝手な手法を行うのは負けへの道だと思ってください。素直であればあるほど、この手法では安心して安定して稼ぐ事ができるということを忘れないで下さい。

最後に、投資と趣味を混同しないことも大切な事です。楽しんでやる事はいいことですが、趣味と混同してポジションを取ることが楽しくなるあまり、ルール外のポジションを取ったりすることは破滅への一歩です。投資の本来の目的は「お金を増やす事」であって、「投資を楽しむ事」ではありません。

このほか、取引に慣れていない初心者ならではの失敗があるので、注意して下さい。私が受講生から報告を受けただけでも、いくつかあります。

- ・信用取引をしたつもりだったが、現物取引をしてしまっていた
- ・買いのつもりが売りになってしまっていた（またはその逆）
- ・含み損を抱えたポジションを間違っって決済してしまった

などといった「押し間違い」の類の失敗です。慣れるまではある程度慎重に行うようにしましょう。

○経験者にありがちなメンタル

初心者とは違い、波乗りトレードを学びにくる中でも少々クセがあるのが投資経験者の方々です。従来の「負けてきた手法」に捉われず、素直に波乗りトレードを学んでいくことができる人ならばなんら問題ないのですが、経験者の中には自分のやってきた手法が間違っていたからこそ負けてきたにも関わらず、自分がこれまで行ってきた手法に固執してしまう人もいます。

そのような人は、波乗りトレードを学んでいるにもかかわらず、かつての自分の手法を混ぜて取引をしてしまい、利益額の減少や損失を招いてしまうのです。ルールを破る事によって自分で自分の首を絞めているにもかかわらず、なかなかかつての手法から抜け出せないのです。

かつての手法で分析を用いていたならば、それを完全に否定するわけではありません。分析はポジションを取るときの根拠となり、予測が当たる確率を上げてくれるものだからです。しかし、あくまでそれらの分析は「波乗りトレードのルール of 範囲内で使う」ということを忘れないようにして下さい。ルールの範疇で行うならば、有効に取引を進めて行く事ができるでしょう。

■メンタルで失敗した人・成功した人

これまで私は、多くの人に波乗りトレードを教えてきました。その中にはつまづいた人や、マスターするのに時間がかかった人もいます。もっとも、つまづいたとはいっても、大きな損失を被ってどうにもならなくなったというようなことではなく、思うように利益を伸ばす事ができなかったり、利益を出すタイミングを頻繁に逃してしまったり、万が一相場に大きな変動があった場合に非常に危険であるという失敗であり、利益が出ていないわけではないのです。言うなれば「波乗りトレードの恩恵を十分に享受できていない」というものであり、そのつまづきの原因のほとんどはメンタルの持ち方によって引き起こされています。

ここでは、メンタルに起因する失敗例をみつつ、実際に失敗した人のケースや失敗から成功に転じた人のケース、そして成功した人のケースを見てみることにしましょう。

〇ルールをなかなか守れないSさん

Sさんはデイトレードに取り組み、資金は6分割して運用していました（デイトレードでは銘柄や資金に応じて5分割以上にポジション数を増やして運用する事ができます）。

Sさんはもともと株の経験者でした。株をやって今まで負け続けてきて波乗りトレードに来た人です。前述の通り、投資の経験者は負けていた頃の手法を完全に捨てられないことは時に大きな足かせになります。Sさんも独自の市場分析をしていました。

相場が下げ相場であったとき、Sさんは独自の分析によって「よし、ここまで値下がりすれば次は値上がりしてくるぞ」と判断して1027円で買いポジションを取りました。しかし予想に反して株価は下がり続けました。株価が977円までさがったとき「もう上がるだろう」と思って買いポジションを取りました。しかし株価は下がります。910円に下がったとき「さあ、さすがにそろそろ上がってくるぞ」との分析によって再び買いポジションを取りました。このような塩梅で、まだ下がり続ける相場に対して、901円で買いポジションを取りました。計4ポジションの買いポジションを持ったわけです。

しかし相場は下がります。Sさんは「全てのポジションを同一方向にとってはず、最低1ポジションは反対売買をしなければならない」との波乗りトレードの手法の通り、863円で売りポジションを取りました。

ここまで、910円と901円という近い株価で買いポジションを持っているあたりは問題ですが、反対売買をきちんといれたところはルールどおりの取引ができています。

しかし翌日株価が860円に下がったとき、Sさんは前日にとった863円の売りポジションから3円の利益が出ると思って、リスクヘッジのための売りポジ

ションを決済してしまったのです。

当然どのような手法でこの状況を抜け出して良いか分からなくなったSさんは私に相談をしてきました。私は「863円の売りポジションはリスクヘッジのために持ったものであって、利益が出ても通常は決済しないんですよ」と軽く叱ったのですが、「値下がりをしたときにあの売りポジションを決済してはいけないとは知らなかった」と、あまりピンときていなかったようです。

幸か不幸か、このような失敗をするSさんでもトータルで勝っています。もっともルールを守れないこと多いものですから、なんらかのきっかけで相場が急変した場合には大きな損失を被ることがあるかもしれませんし、ルールを守って取引している人に比べれば十分に利益を重ねる事ができていません。

○失敗から成功に転じたHさん

Hさんはこれまで様々な投資を経験してきた人でした。なかなか勝つことができないうきに波乗りトレードに出会ったのでした。

しかし、波乗りトレードが余りにも非常識的な手法であったため、当初は「この手法は本当に大丈夫だろうか？」という疑いを強く持っていました。確かにHさんはこれまで10年以上にわたって投資をしてきた人であったため、一般的に知られている分析や手法が身に染み付いてしまっていましたから、不安に思うのも仕方がないことでした。

そのため、Hさんはもし波乗りトレードで全く稼げなかったためのリスクヘッジとして、これまでやってきた手法を用いて他の銘柄の取引をしていました。投資信託などにも手を出していました。そして波乗りトレードでは年間で数百万円の利益が出ていたのですが、従来の方法を用いたそのほかの取引によって損失を出してしまい、トータルでは大きなマイナスを出していました。損失額

は 3000 万円にも上っていたといいます。つまり、リスクヘッジのためと
やってきた波乗りトレード以外の取引が利益を阻害しており、結局はリスク
となってしまっていたのです。波乗りトレードへの不安というメンタルが失
敗を招いていたのです。

H さんにとって契機となったのは 3.11 の東日本大震災でした。このとき日
本経済は混乱し、多くの株価は大きく値下がりを見せたため、当然複数銘柄で
取引をしていた H さんも、大きな損失を出す事となりました。しかし驚くべき
ことに、リスクヘッジを重んじてポジションを取っていく波乗りトレードのみ
が、東日本大震災の打撃にも耐える事ができたのです。

「これはひょっとするとすごい手法なのかもしれない」と思った H さんは、
波乗りトレードにそれまで抱いていた不安をぬぐい、思い切ってそのほかの取
引は全てやめて、波乗りトレード 1 本にしたのです。すると 1 年余りでそれ
まで積み重ねてきた損失を全て取り戻し、今も利益を出し続けています。株で
安定的に稼ぐ事ができるようになった今、母親を都内有数の高給老人ホームに
入所させ、自身はタワーマンションに引っ越しました。

また、この H さんですが、波乗りトレードに一本化した当初は相当に辛かっ
たようです。何が辛かったかという含み損が辛かったのです。含み損は投資
経験者ならば、波乗りトレードに挑戦するときだれもが直面する壁です。一般
的な手法では含み損をいかに早い段階でロスカットするかということが教え
られるからです。

H さんも当初はその教えを忘れる事ができず、資金 5 分割法や単一銘柄に対
する取引など、波乗りトレードの手法に則って取引を行っていたのですが、
「○%以上値下がりしたらロスカットする」というようなロスカットルールを

設けて取り組んでいました。しかし波乗りトレードにおいては、含み損は抱えるのが当たり前であり、しかもロスカットをしないために、通常取引ではとても考えられないほどの大きな含み損になる事がまれにあります。しかしそれでも放置して利益に転じていく手法であるため、ロスカットルールなどを設けては利益を出して行く事はできません。心配性のHさんは悩みました。

そしてメールで私に相談がありました。「下山さん、含み損がこれだけ増えています。毎日辛いです。株のことは考えたくないのですが、どうしても気になってしまって胃が痛く、仕事も手につきません。含み損を抱えた状態から逃れたいのですが、ロスカットしてはいけないのでしょうか」というものでした。経験者が含み損に対してどれ程辛い思いをするかは私もよく知っているので、「投資の世界において“絶対”ということはいえませんが、こういう根拠がありますから、今はこのように大きな含み損を抱える事になっていますが、おそらくこの含み損は利益になっていきますよ」といって安心させました。Hさんも納得した模様でした。

しかしそれから1週間が経ち、含み損が減らない、もしくは増えていると「本当に大丈夫ですか？」とメールが来ました。「〇ヶ月以内にこういったイベントがありますので、そこが転換期になって利益が出てきますよ」といって安心をさせました。そして実際にその通りに転換期を迎えて、含み損は利益となりました。実際に利益に変わるまではHさんから何通も相談メールをもらいました。

この書籍を読むだけ、私の講義を聞くだけの時には、「含み損を抱えても気にしなければいいんだな」と安易に考えてしまい、簡単なことのように思えるのですが、実際に含み損を抱えて、それが拡大していくという事は想像以上に辛いものなのです。

それを踏まえて、含み損に関していい資料となる受講生を紹介しましょう。

○含み損に耐えた T さん

私は 1 日に 1 回、3 分のトレードをし、それをメールで配信するという事を行っています。波乗りトレードを学ぶ人の中には、私の行う取引を模倣して利益を出している人もいます。T さんはそんな中の一人で、私の配信を元に取引をしていました。

上昇相場のなかにおいても、ポイントで値下がりをするポイントがあるものです。そんなときの話なのですが、雇用統計の発表内容が余りよくないことが予測されたため、上昇相場ではあるが値下がりをするかもしれないと思って、木曜日に 1 ポジションの売りを入れました。翌日には相場は値下がりを見せたため、私はその売りを決済したのですが、T さんはちょうどそのときインフルエンザにかかってしまい、その日に決済注文を出す事ができませんでした。

その時の値下がりも予測どおり、上昇相場におけるワンポイントの値下げであったため、相場はまた値上がりを始めました。上昇相場なので私は買いを入れたのですが、T さんは金曜日に決済できなかったことから私の配信用のポジションとのずれが生じており、尚且つ木曜日を取ったポジションが含み損となっていました。そこで T さんは、「上がってきたから反落するかもしれない、ここで取り返してみよう」と思い、自分の判断で売りポジションを取ったのでした。こうしていよいよ収集がつかなくなり、私に相談をしてきたのでした。

「実は金曜日にインフルエンザにかかり病院にいき療養していたため決済ができませんでした。そして独自の見解で注文を出してしまいました。このうちポジションはどうすればいいのでしょうか？ロスカットしたほうがいいのでしょうか？下山さんならどうしますか？」との質問でした。

私は「僕ならロスカットはしませんよ。確かに上昇相場なので今後も値上がりはしていくでしょうが、6ヶ月以内にはその売りポジションを下回る株価にまで値下がりする可能性が大きいからです。ただし、これからも一時期は値上がりしていくでしょうから、含み損に対するメンタルはきついでしょう。それに想定以上に値上がりをした場合には値戻りしないかもしれません。でも、僕ならロスカットはしません」と答えました。

その後、株価は上昇して行ったものの、あるイベントを景気として値下がりを始めました。Tさんの資金は700万円だったのですが、含み損は一時期、最大で200万円にまで膨らみました。しかし、Tさんは値戻りを信じて気丈に耐え続けました。そして値は戻り、売りポジションを入れたときよりも下回って、最終的には100万円の利益を出す事ができました。Tさんは今でも「あの時は地獄でした」と語りますが、その経験をしてからというもの、含み損に対してのメンタルは非常にポジティブなものになり、今も利益を順調に積み重ねています。

含み損にいかにか耐えていくかというメンタルが大切です。含み益をもっているときには、その含み益は損失になる可能性をはらんでおり、含み損をもっているときには、その含み損は利益になる可能性をはらんでいます。私は「含み損は利益の種」と考えています。必要以上に心配しないメンタルが大切です。

年に数回、Tさんのように非常に大きな（従来の手法ではとても考えられないような）含み損を抱える事もありますが、絶対にやってはいけないのはその含み損のプレッシャーに負けることです。

○その他の成功者達

今年の11月30日、3ヶ月間のセミナーを終えて、卒業式が行われました。受講生の中にはすでに実際の取引を始めている人もおり、その中から3人をランダムに選び、質問を投げかけてみましたので、成功者の一例として読んでください。

・ルールに素直なNさん

Nさんは、株はおろか全ての投資に未経験の女性です。「お金はたくさんあったほうがいい、収入の道は多ければ多いほどいい」と思ってスクールに入ったのでした。投資はお金を増やすために行うものですから、この基本姿勢はいいと思います。

最初はどうかやって収入の道を増やそうかと模索し、アフィリエイトなどさまざまなビジネスをめぐっていたところ、どこをどうきたか、波乗り株スクールにたどり着いたとのことでした。

ファイナンシャルプランナー2級の資格を持っているNさんは、信用取引や株に怖いイメージをもっていました。一般に抱かれている怖いイメージの通り、借金を負ってしまうのではいか、取り返しのつかない大きなお金を失う事になるのではないかと、といったイメージです。そのため、波乗り株スクールへの入塾にも二の足を踏んでいたそうです。

しかし波乗りトレードの無料配信動画を見ていくうちに、信用取引がそれほど怖いものではないこと、そして波乗りトレードの手法がシンプルであることを知りました。そして彼女曰く、「下山さんの人柄を見て」ということも入塾の理由になったとか。

取引において苦労した事は、元手となる資金の準備でした。貯金はなく、セミナー費用さえどうしようかと思っていたそうです。そして彼女が取った手は（本来波乗りトレードにおいてご法度である）お金を借りるというものでした。借りたお金でセミナーを受け、取引を始めました。

なぜ借金をしてまで挑戦する気になったかという点、無料配信していた動画の手法を元に半年分の過去トレードに取り組んだところ、利益を出す事ができたからです。

取引を始めたのは8月27日でした。元手は70万円からでした。取引では着実に利益を重ねる事ができ、11月29日までの約3ヶ月間で、税金などは差し引いても15万5000円のプラスになりました。これは22%も増えた事になり、なかなかの成績です。

投資未経験の彼女にとっても、手法はなんら難しい事はなかったといいます。ただし、8月28日に売りポジションを持ったところ株価が上がり続けて含み損を抱えることとなり、これが最大のときで11万円もの含み損となり、このときには少々辛かったそうです。しかしその含み損も2ヶ月でプラスにすることができました。ロスカットをせずに値戻りを待つということがよく分かったとか。

実際に取引を始める前と始めた後でも、あまり大きな違いは感じられないということです。すごく単純にルールを守るという姿勢を持っており、私が常々口をすっぱくして言っている「含み損を気にしない」ということを初めとするメンタルの大切さがよく分かっており、含み損に対してほとんど気にすることがないようです。そして、単純に利益が10円以上出たら決済というルールを自分で求めて、利益を求めすぎる事からも自らを遠ざけ、着実に儲けているようです。

Nさんは素人であることが好影響となったいい例です。投資について何も知らないため、無駄な知識に惑わされる事なく、シンプルに、素直に波乗りトレードの手法を守ることができているのです。

・FXから転向したYさん

Yさんは、株は未経験であるものの、かつてFXをやっていたという意味で投資経験者です。FXではトータルで土ゼロといったところであり、儲からないと思ってやめました。

外国為替市場は株式市場とは違い24時間開かれているため、24時間いつでも常に値が動いています。Yさんは含み損を気にしすぎる性格であるため、24時間いつでも気にしなければならないFXは精神的にきつかったといいます。それに株式市場が開いているのは6時間くらいであり、さらに波乗りトレードでは相場に張り付く必要が全くないばかりか、毎日1回終値を見ればいいだけなので、精神的に非常に楽になったといいます。

株は全くの初心者であったYさんは、今年9月半ばくらいに取引を開始しました。

手法に慣れるまでは少しの苦労があったものの、取り立ててきつかった事はなかったそうです。売買のタイミングがあまり分からず、悶々としたこともあったそうですが、結局ポジションはあくまで調整のために取るものであり、タイミングなどはそれほど気にしなくていいことを知って安心したとのことでした。

また、ポジションの調整にはまだ余りなれておらず、最大でも4ポジションを持ったことが数回ある程度で、基本的には3ポジションで取引をしていると

います。そのため、利益を取るタイミングが少なくなっている気がする話をしていました。

そこで私は「利益を取るタイミングは確かに減っているかもしれませんが、負けないことが大切なのであって、現在の手法で満足感があるならばそれでいいでしょう。ルール範囲内で頑張ってください」とアドバイスをおきました。

今後の不安を尋ねたところ、不安は余りないものの、今以上に利益を出していくためのイメージがつかめていない事は多少考えるところがあるといっていたので、それに対しては「そのようなときにはその日その日の利益は気にせず、1ヶ月後にまとめて利益を見てみると良いでしょう。意外と利益が出ているものですよ」とアドバイスをした次第です。

・株経験者の K さん

Kさんは、長い間株取引を経験してきた人です。テクニカル分析を主体に取引をしてきており、結構勝ってはいたものの、リーマンショックで大痛手を被ったのでした。

Kさんも信用取引に対して「借金を抱える事になりはしないか」といったイメージをもっていた一人であり、波乗りトレードを始めるまでは現物取引のみを行っていました。

しかし波乗りトレードに出会い、実際に信用取引を行ってみると取引をする金額も3倍と緩やかであるし、最悪の場合でも大きな痛手を受けることはないということを知りました。全く危険ではなかったのです。

取引を始めたのは9月半ばでしたが、大変だった事は最初両建て注文に頼りすぎていたことだそうです。両建てにすれば値動きと共に必ず利益を出す事が

できるものの、その反対のポジションでは必ず含み損が出ます。その株価まで値戻りするかどうかはともやまとした事もあったといいます。

元手は470万円でスタートし、約2ヶ月で70万円の利益を出す事ができました。私が配信する見解と自分の見解を組み合わせるトレードを行ったそうです。従来行っていたテクニカル分析を使うこともあるそうですが、それも波乗りトレードのルールの内範囲で使っているため、活きている事と思います。

■メンタルはこうやって維持する！

これまで数々の具体例も挙げつつ、メンタルの大切さを解説してきました。それでは、そのようなメンタルはどうやって作ってあげればいいのでしょうか。

最もいい方法は、経験をつむことです。経験をつむことによって、メンタルがいかに大切かという事を体感する事がいいと思います。体験談でも紹介した「含み損に耐えたTさん」のように、含み損がいずれ利益に転じていくものなのだということを実際に体験することができれば、含み損に対して動じないメンタルを作る事ができると思います。

しかし、それでも元来心配性である人もいるでしょうから、より簡単な方法を挙げましょう。

それは「相場を見ない」ということです。相場を見ると一喜一憂してしまいます。気にしないのがもっともいいのです。

私などは寝て、目が覚めたら相場を見るくらいのペースが最適だと考えているほどです。相場は余り見ることがありません。そもそも場中の値動きなどというものはほとんど重要ではなく、重要なのは相場が終ってからの終値やニュース、相場環境などです。そして直近の値動きよりも大局での値動きこそが大切です。

そのため、波乗りトレードを行う人は、1日3分のトレード時間以外は仕事に没頭するもよし、遊びに行くもよし、趣味に没頭するもよし、お笑い番組をみて笑うもよし、とにかく相場を気にしないことです。

こんな事をいえばこれまた「非常識的な方法」であるため、不安を覚える人も多いかもしれません。そこで、私が1日をどのように生活しているか紹介しましょう。毎日がこれと全く同じ生活ではなく、決算日周辺ではもう少し取引をしたりしていますが、このゲームと共にある生活が私の基本的な生活だと思ってください。

○私の一日（7月5日金曜日）

5:00	就寝
10:15	起床。ゾーキーパー（パズルゲーム）に興じる。株価のチェックはゲームの合間に見る程度です。パズルは好きでよくやっています。株のことばかり考えていると株は失敗しがちなものです。パズルをしていると株のことを考えている暇がなくなるのでちょうどいいのです。
10:45	株価チェック。株価を見て、この日は午後からの参入で OK と判断。
11:00	パズドラに興じる。パズドラにもはまっています。
11:25	昼寝。朝になるのが多いことと、寝ていると株価のことを考えなくてすむため、昼寝はよくします。
14:25	起床して株価チェックをします。利益が出ていたので利益を確定しました。
14:30	本日の取引を配信するためのメールを作成します。この日は買い注文を出しましたが、これは目先では下げ相場であるものの、参院選で値上がりする事が期待されるからです。 利益を確定し、利益の種もまきました。この日の株取引は惟で終わりです。再びパズルゲームに興じます。
14:45	メールを配信します。

ここまでの流れで分かると思いますが、相場が開いているときにも私はゲームをするか、寝るか、それ以外は余りなにもしていません。大切なのは海外の動向であり、極端な話をすれば、海外の市場が閉まっている日本市場の場中はそれほど重要ではないのです。

16:00	この日はアルバイトの日なので、シャワーを浴びます。
16:45	着替えて少しだけパズルゲームです。
16:56	アルバイトに出発です。カロリー消費を考えて駅まで歩きます。

なぜ投資家を称する私がアルバイトをしているのか、不思議に思う人が多い事でしょう。もしかしたら投資だけじゃ食っていけないのかと思われるかもしれないので一応経緯を説明しておきます。

私はかつて飲食店を経営していたこともありましたが、その時のオーナー会議で知り合った居酒屋のオーナーが、どうしても人手が足りないから手伝ってくれといわれていたのです。アルバイトは週に2回で、行かなくてもいいならいきたくないと思っていますが、仕方なく行っているという感じです。しかしアルバイトでもなければ家から1歩も出ずにお菓子を食べて、漫画を読んで、ゲームをして、寝てという生活が多かったため、アルバイトはいい運動になるとも思っています。

投資家になってからというもの本当に運動をしておらず、少しの運動で動機や息切れがしたのでこれはまずいと思ったため、今もアルバイトがない日はジムで1時間のジョギングをしています。

0:00	この日は0時までアルバイトでした。帰宅中にコンビニでお菓子や食料を買い、帰宅後食事です。
1:17	食事が終わってパズルゲームをし、この日は金曜日で雇用統計が発表されたため、それを確認します。この雇用統計によって来週の展望が大体予測する事ができ、利益を確信しました。
1:30	朝方まで起きておく事が多いのですが、アルバイトがある日は疲れて早めの就寝です。

この生活ぶりを見ていただければ分かるでしょうが、このように私は余り相場を見ることはありません。好きなことをしているだけに見えるかもしれませんが、それが結局は取引で勝っていくためのメンタルの維持に繋がっているのです。